

家の者して前件を委細平岡に通せし先候ハ承諾致し候ハ十月下旬の事ハ御座候斯くて十一月十三日ハ至リ内務省庶務局より會社の事ニ付召狀到來ハて十五日ハ出頭致さへき旨ハ御座候處此頃鯁生ハ社務の事ハ執商致し運動を缺き候ハ時ハ夜間も起出テ机ハ凭テ事ノ多キ爲ハ十月の初より感冒ハ罹リ氣管枝ハ焮衝を發シ聲嘎咳嗽ハ惱ミ候ニ付通家の者を代人として庶務局へ差出し候ハ過日申上候如ク會社の規則書會社條例ハ不叶趣ハて改革可致旨并ハ會社維持之法等是ハ富田氏必得マテの由 質問論達有之候由ハて罷歸リ代人の推察より政府ハてハ株金を募ル方可然様の模様も御挂リ官人の口氣ハ相見ヘ候ト申候ニ付そハ株金を募ルの不便あるトハ幾重ハも可弁又改革のトハ不取敢着手モヘシト申聞候處然レトモ若シ株金を募ラスして不都合の節ハ如何ハも手後レハ可相成レハ安田ハ有力の者ハ豫先申込置ヘシト申候ニ付そのよキ用意あるヘシトて先安田へ申聞候處早速承諾の趣ハ有之然ルハ十七日の詰朝安田卒然ト弊屋を問ヒ扱近日會議所ハて舊水戸藩の何某ある者生命請合の話ハ及ヒ互ハ目論見度ト申候處彼邦の算法ハてハ甚タ難キ事故譬ハ先五百人申合せ其中一人ハ死セシ時ハ社中ハて二圓宛持出し死者の遺族ハ一千圓與ふる仕法ハせハ如何ト言出セシハ折節小安峻成島柳北等も居合せ楠本知事公も居られ至極宜しうるヘシト賛成ハて忽チ同意の者十人程出來ルハ依テ壹人ニ付外ハ五十人宛同志を募ル約束ハ

テ相別レ候ハ已ハ一昨日ハて滿員ハなリぬレハ今日日十七 是より集會して規則を取極むる所ハり足下ハ企テられル保生會社ト擬似の者ハレハ一應斷テ申也尤ハる企アレハ足下の事業の先導トありテ世人も早く之を知る故足下の爲ハも便利あるヘシ但シ足下の事業ト差支相成候テハ不都合の事故今日席上ハて其邊の事項もあハテ小生ハ如何ハも防キ止むヘシト親切らハテ申候ニ付されハ其邊の處ハ何分ハも頼むナリ尤拙者ハ於テハ少しも故障ハせねト知らルハ如ク特許を願ヒおレハ若シ後日ハ支障ありテハ同様ハ不都合の事故其事ハ足下より注意セラるヘシト申聞候ハそハ如何ハも承知セリ扱右申通り此社員も楠本公ハ御加入ハり加島清左衛門も加リぬレハウクハ速ハ加入の人もありぬルハ一ハ世間の人氣ハ大ハ是等の事ハ注意スル様ハ相成ヌレハ足下も可成速ハ願書を差出さるヘシト申候ニ付されハ其事ナレハ足下も拙者ハ願書を東京府廳へ九月十三日ハ差出せるハ知らルハ處あるヘシ扱右願書の事ニ付種々内務より下問もあり株金募收の方然ルヘシト存込ルハ故昨日通家の者を以テ足下まで依頼ハ及ヒルハ次第あるハ足下も承知ハて満足セリされトモ一應ハ其答弁も可差出ト存シ只今認免居最中ハりト申候處何分ハも速あるハ宜しうるヘシトて別ハ其後答弁も出來定款も稍銀行定例ハ擬シルハ者を製シ富田冬三氏を訪ヒ猶不都合のケ條あらハ示シ吳候様相頼み日ハ相待居候此間平岡ハ書を以テ通家の者

を招き扱會社の願も追々小運ふ様子小承りぬり然ルハ公告其外出來無之候てハ不便あるへし去とも之を安田等小謀るも不都合かれ今抵當物を差出し大藏省へ拜借金をせよ

【此記録ハ故三浦周行博士ノ厚意ニヨリ京都帝國大學文學部國史研究室所藏寫本ヲ謄寫シタルモノナリ  
生命保險會社協會々報第十八卷第三號參照】

共濟五百名社

明治十二年

郵便報知新聞 第三〇五二號 明治十二年十二月二日

銀林、成島、子安、安田、川崎、鹿島、鈴木、長谷川八名の紳商か發起人にて共濟五百名社を組織せんとし其規則を編してこれを印刷せられたり

朝野新聞 第一八七七號 明治十二年十二月十三日

○共濟五百名社御加入の向は來十五日迄に敝社柳北方迄御報道被下度（尤殆と満員に近し）既に御約諾申候向は來十八日迄結約書御投可被下候金圓之儀ハ二十日迄小舟町第三國立銀行へ御引合可被下候

朝野新聞 第一八八四號 明治十二年十二月二十一日

○共濟五百名社員は略ぼ満員に相成たるに付發起人幹事集會をなせし處重複になりし人名も多

第二編 會社資料

規則編纂  
印刷ノ報 (47)

加入申込  
告ニ就キ廣 (43)

欠員アリ (44)

く有りて猶関員有り若し入社を望む者は來廿五日迄小舟町第三國立銀行に御來談有る可しとの事

明治十三年

共濟五百名社申合規則

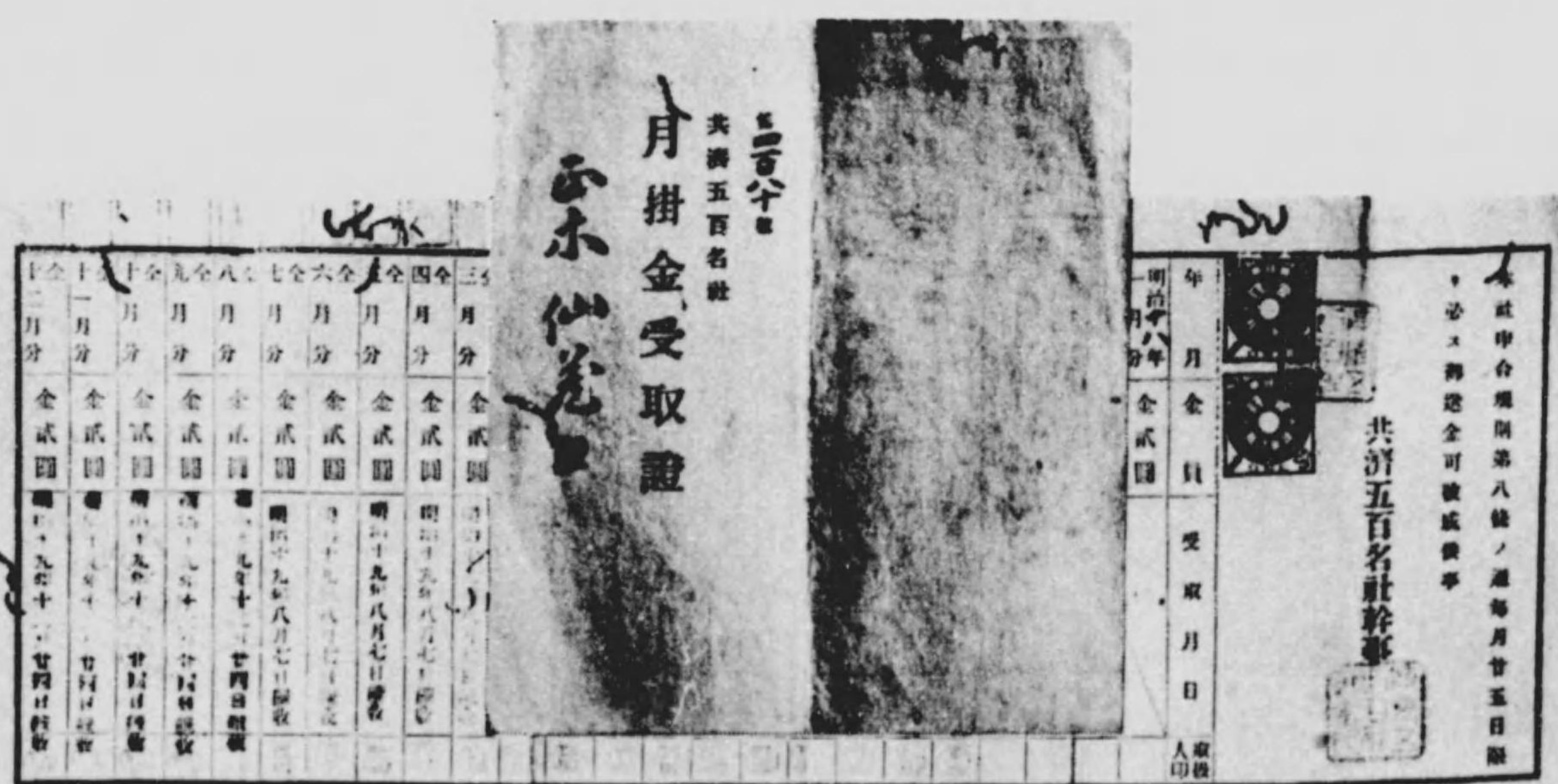
明治十三年一月 (安田本社所藏寫本ニ依ル)

凡ソ吾人ノ世路ヲ經過スルヤ幾浮沉幾苦樂ヲ歷ル實ニ測ル可ラズ而シテ天災地變ノ如キハ敢テ逃ルニ道ナキニ非ズト雖モ獨リ逃ル可ラザル者ハ命數ナリ故ニ人ノ父母タル者幼弱ノ子女ヲ遺シテ遠逝スルノ時ニ際シ家ニ餘財ノアルニ非ザレバ其孤兒將來生計ノ如何ヲ患ヒ或ハ地下ニ隕スルコト能ハザルノ歎ナキヲ免カレズ然ルニ之レヲ救濟スルニ道アリ是レ吾輩ノ此社ヲ設立スル所以ナリ 抑モ該社タルヤ泰西ノ人命保險會社ト少シク異ナル有ルモ慈惠ヲ第一主義トシ有志ノ者同盟シ以テ一社ヲ結ビ社中死者アルニ臨ミ遺族ニ金員ヲ惠贈シ之レヲシテ生計ヲ立シムルノ一助ト爲シ其遺族ヲシテ死ニ喪シテ憾ミナク死者ヲシテ地下ニ瞑スル能ハザルノ歎ナカラシメントス而シテ生産富饒ニシテ敢テ我が遺族ニ顧慮スル所無キ者モ亦入社スルハ蓋シ他ヲ救濟スルノ慈心ニ出ヅルガ故ナリ今其條款ヲ設クル左ノ如シ

第一回申合規則 (45)



證之員々社名百五濟共 (45)



證取受金掛月社名百五濟共

第一條

本社ハ假リニ日本橋區小舟町三丁目第三國立銀行中ニ置キ社員ハ五百名ト定ム

第二條

年齢五十歳以下十五歳以上ニシテ無病ノ者ニ限リ本府ノ本籍ト寄留トヲ問ハス官民ノ別ナク一戸ニ主タル者此申合規則ヲ遵守スルニ於テハ入社スルヲ得ベシ  
但戸主極老或ハ幼少ナルモノニシテ其父母或ヒハ相續人ノ中ニテ入社ヲ請フ者ハ之レヲ許スコト有ル可シ

第三條

入社ノ者ハ第一號雛形ノ通り證券ヲ與ヘ以テ社員タルヲ證ス

第四條

入社ノ者ハ第二號雛形ノ通り結約書ヲ出スベシ

第五條

府下十五區六郡ノ社員ヨリ一區一郡ニ付委員二名宛（合計四十二名）ヲ選ビ專ラ其區郡内社員ノ事ヲ擔當セシメ委員中ヨリ更ニ幹事十名ヲ擇選シテ社中一切ノ事務ヲ總轄セシム

但一郡區ノ人員ニ乏シキ處ハ必ズシモ二名ヲ要セズ

第六條

社中或ハ社外ノ者ヲ以テ書記二名小使一名ヲ置キ幹事ノ指圖ヲ受ケ會計簿記等ノ事ヲ掌ラシム

第七條

創社ニ付持寄金トシテ各員ヨリ金六圓ヲ出ダシ（合金三千圓）之レヲ積金トシテ國立銀行ニ預ケ年一割ノ利子ヲ附シ以テ書記小使ノ給料其他筆墨紙ノ雜費ニ充ツ

第八條

社員ハ豫メ掛金トシテ金二圓宛ヲ出シ（合金千圓）之レヲ國立銀行ニ預ケ社員中物故スル者アルニ際シ證券ト引換ヘ金千圓ヲ其遺族ニ惠與ス

但本人ヨリ豫メ遺族中金圓ヲ受領ス可キ者一名或ハ數名ヲ定メ置キ之レヲ幹事ニ報ジ置クヲ可トス

第九條

社員中物故スル者有ルトキハ速ニ本社ニ報告スベシ幹事ハ之レヲ各員ニ報道ス

第十條

此報道ヲ得タル日ハ三日以内各社員ヨリ金二圓三錢宛ヲ本社ニ送致シ以テ後死者ノ遺族ヘ惠贈スベキ豫備トシテ之レヲ國立銀行ニ預ケ置クベシ

但右金三錢ハ報道等ノ雜費ニ供シ剩餘ハ之ヲ持寄金ノ利子中ニ加フ

第十一條

社員中都合ニ寄り月々或ハ時々掛金ノ豫備トシテ若干金ヲ本社ニ委托シ置ク者ハ之ヲ預リ本社ヨリ相當ノ利子ヲ與フ

第十二條

惠與金千圓ハ死者ノ貧富或ハ遺族ノ都合ニ因リ幹事ト協議シテ其金額或ハ幾分ヲ本社ニ預ケ置クモ妨ゲナシトス然ル上ハ相當ノ利子ヲ附シ何時ニテモ之レヲ還付スベキ者トス

第十三條

死者ノ遺族富有ニシテ惠與金ノ金額或ハ若干圓ヲ辭シテ之レヲ社ニ返附スルキハ其意ニ從ヒ之レヲ社中ノ積金ト爲シ國立銀行ニ預ケ其利子ヲ以テ社中ノ災厄ヲ救フノ方法ヲ定ム可シ

第十四條

死者ノ相續人年齢第二條ニ適シ掛金ヲ出タスニ堪タル者ハ必ラス引續キ入社スル者トス  
但其際ニ於テ幹事ノ鑑定ニ依テ入社ヲ許ササルヲ有ルヘシ

第十五條

不得已事故アリテ退社セントスル者ハ豫メ幹事ノ認可ヲ得テ代員ヲ入社セシム可シ

第十六條

代員タル者ノ其年齢本人ノ年齢ニ超ユルコトナク無病ノ者ニシテ幹事ノ認可ヲ受タル者トス

第十七條

代員ヘハ本人ノ證券ト引換別ニ證券ヲ交付シ其人ヨリ更ニ結約書ヲ社中ニ出ス可シ

第十八條

社員中若シ懲役或ハ禁獄ニ處セラル、者アルトキハ其家族或ハ保證人ヨリ掛金ヲ出スベシ

第十九條

十年ノ懲役或ハ十年ノ禁獄ニ處セラル、者（惠與金ヲ獲ント欲シ故意ニ出ヅル者ノ外）ハ其家族ニ先ツ半額金五百圓ヲ給シ以テ掛金ヲ出サシメ而シテ物故スルトキハ其殘額ヲ惠與スルコトアルヘシ

但シ各員其報道ヲ得タル日ハ三日以内各金一圓三錢宛ヲ本社ニ送致スベシ

第二十條

若シ終身懲役或ハ終身禁獄ニ處セラル、者（前條ニ同ジ）アル日ハ之レヲ死者ト視做シ其家族ニ金千圓ヲ惠與ス

第二十一條

社員年齢七十以上ニ及ベバ本人ノ望ミニ因テ先ツ半額ヲ渡スコトヲ許ルス  
但シ各員其報道ヲ得タル日ハ三日以内各金壹圓三錢宛本社ニ送致スヘシ

第二十二條

故意ヲ以テ自殺スル者ノ遺族ハ該金千圓ヲ受クルノ權利ヲ失フモノトス發狂人ハ此限ニ非ズ

第二十三條

本人掛金ヲ忘リ保證人亦之ヲ弁納セザル者有テ三次ニ及ベバ之ヲ除社ス  
但シ持寄金掛込金ハ返付セス

第二十四條

轉籍移住ヲナス者ハ直チニ之レヲ本社ニ報道スベシ

第廿五條

公私ノ用向ニヨリ外國若クハ内國他府縣ニ出張スルコトアラバ掛金ハ其家族或ハ保證人ヨリ納ム可キ者トス故ニ出發前本人ヨリ其人ヲ定メ本社ニ報スベシ

第廿六條

一家族ヲ舉テ他府縣ニ移住スル者ハ親類等ノ内府下居住ノ者ヲ引受人ト定メ其者ヨリ掛金ヲ納メシムベシ該引受人ハ幹事ノ認可ヲ經テ定ムル者トス

但出發ノ際年限ヲ見込若干金ヲ社中ニ預ケ置クモ可ナリ

第廿七條

毎年二月前一箇年中死者ノ員數惠贈金給料雜費一切出納ノ模様ヲ各員ニ報告ス

第廿八條

毎年三月委員一同ノ集會ヲ爲ス時トシテハ社員一同ニモ及ブコトアル可シ

第廿九條

該規則ハ明治十三年一月一日ヨリ施行スル者トス

第三十條

此ノ規則ハ目今確定シタル者ト雖モ後年ニ至リ思想外ノ變遷有ルニ及ヘハ社員一同ノ衆議ヲ採リ之ヲ改定スルコト有ル可シ

發起人

- 銀 林 綱 男
- 成 島 柳 北
- 子 安 峻
- 安 田 善 次 郎
- 川 崎 正 藏
- 川 崎 八 右 衛 門
- 市 川 好 三
- 鹿 島 清 左 衛 門
- 鈴 木 慧 淳
- 長 谷 川 清
- 加 藤 九 郎

第一號雛形

共濟五百名社々員之證

印紙

一貴殿ノ社員タルヲ證シ此證券ヲ付シ遺族へ金千圓ヲ惠與  
セシメテ盟約ス仍而如件

年 月 日

共濟五百名社 印

幹事

某 某 某

某 殿

第二號雛形 (用紙五厘界紙)

本籍  
寄留地

某

生年月日 何年何ヶ月

社則ヲ遵守シ惠與之掛金無遲滯相納可申候仍而如件

明治 年 月 日

右

某

前書ノ通相違無之本人出金相滯候ハ、拙者ヨリ弁納可  
致候

保證人宿所

某

共濟五百名社 御中





第二類 人保險之部

共濟五百名社人名簿

第號	入社年月	備考	姓名	第號	入社年月	備考	姓名
一	明三・一	明六・四・六除名	山岡鐵太郎	一六	明三・一	明六・五・四改革ニ付退社	日下部東作
二	"	明九・七退社	岡本益道	一七	"	明九・三・二死去 三・三・二惠與渡	廣瀬政右衛門
三	"	明五・七・四死去 八・七惠與渡	芦田順三郎	一八	"	明五・〇退社	巖谷修
四	"	明〇・二除名	金谷佐兵衛	一九	"		櫻井敬三
五	"	明〇・二除名	秋山則白	二〇	"		四尾恒之
六	"	明七・〇・四除名	大賀宗孫	二一	"		長松幹
七	"	明六・四・二死亡 六・六天惠與渡	松田周則	二二	"		松野礪
八	"	明六・五除名	陸原惟厚	二三	"	明七・〇・六死去 八・一・三惠與渡	大野誠
九	"	明六・五社則改正 不同意ニテ退社	澤田直溫	二四	"	明九・六除名	春日遲
一〇	"	明五・五退社	川田剛	二五	"		長 炎
一一	"		酒井默吟	二六	"	明五・二退社	泉田久藏
一二	"	明六・二死去 三・七惠與渡	杉實信	二七	"	明六・八・三退社	桐山嘉平
一三	"	明三・六・三死去 六・三惠與渡	小山保	二八	"	明六・三・九死去 五・九惠與渡	三原孫七郎
一四	"		瓜生寅	二九	"	明七・三退社	加藤市右衛門
一五	"		乙部昇	三〇	"	明六・四・三死去 五・三惠與渡	山下知行

第二編 會社資料

三一	明三・一	明六・五除名	清水新兵衛	四八	明三・一	明六・五・三死去 六・元惠與渡	小松吉治
三二	"	明六・五除名	竹中邦香	四九	"	明六・五除名	宮村擊
三三	"	明六・五除名	徳田多助	五〇	"	明年月除名	松原蒼造
三四	"	明六・五除名	竹中スミ	五一	"	明六・九・五退社	大見フサ
三五	"	明六・二退社	中川忠明	五二	"	不詳	原退藏
三六	"		寺家村逸雅	五三	"		佐藤存
三七	"		天野可春	五四	"	明六・二・五死亡 五・三惠與渡	塚本明毅
三八	"	明三・〇・五死去 一〇・二惠與渡	山田龍司	五五	"	明六・〇退社	塚本誠
三九	"	明八・五除名	澤村百之助	五六	"		川口霏
四〇	"		三島毅	五七	"		安達重固
四一	"	明三・一・六死去 二・五惠與渡	高柳岩三郎	五八	"	明二・六除名	岩橋轡輔
四二	"	明六・三退社	大久保政助	五九	"	明五・〇・六死去 三・一惠與渡	瀧田正喬
四三	"	明四・二退社	兒玉玄吉	六〇	"	明九・五除名	袖山益衛
四四	"	不詳	小倉萬二郎	六一	"	明八・六除名	市原政樹
四五	"	明三・六退社	清水誠	六二	"	明五・三・〇死去 六・七・一互救金渡	増田眞天
四六	"		彭城昌實	六三	"	明五・一・八死去 七・一惠與渡	堀貞享
四七	"	明八・七除名	青地基治	六四	"	明三・三除名	松林義規

第二 人保險之部

六五	明三・一	明四・三	退社	武藏 吉彰	八二	明三・一	明九・五	除名	渡邊 濟
六六	"	明九・五	除名	高島 吉之助	八三	"	明三・三	死去	明林 權兵衛
六七	"	"	"	岡野 五兵衛	八四	"	明三・二	惠與渡	井坂 泉
六八	"	"	"	服部 幸右衛門	八五	"	"	"	山中 新
六九	"	"	"	杉浦 作次郎	八六	"	"	"	淺沼 廣道
七〇	"	明三・一〇・三	死去	深井 源五郎	八七	"	"	"	小山 正
七一	"	明三・一〇・六	死去	鳥山 貞利	八八	"	"	"	服部 敏
七二	"	明三・一〇・六	死去	能勢 久成	八九	"	明九・五	退社	佐藤 寛
七三	"	"	"	土方 久元	九〇	"	明六・	退社	小池 友愛
七四	"	"	"	青木 咸一	九一	"	明九・三	死去	原田 明善
七五	"	"	"	丸茂 謙吉	九二	"	明三・三	惠與渡	山口 正定
七六	"	明九・五	除名	武 昌 吉	九三	"	明五・一	死去	山口 正俊
七七	"	"	"	柴田 承桂	九四	"	明三・五	除名	朝比奈 一
七八	"	"	"	菊池 康庵	九五	"	明五・〇	沒收	楠見 信貴
七九	"	不詳	"	吉田 克己	九六	"	明五・三	退社	富田 縫
八〇	"	明九・六・六	死去	小倉 毅豐	九七	"	明八・七	除名	小柳 津延
八一	"	明六・五・五	退社	河崎 眞胤	九八	"	明九・五	除名	田原 敬知

九九	明三・一	明五・一〇	沒收	吉田 信一	一一六	明三・一	"	"	荒井 郁之助
一〇〇	"	明七・三	退社	菅谷 敬讓	一一七	"	明三・五	退社	石原 豊貫
一〇一	"	"	"	高松 凌雲	一一八	"	明七・二・三	死去	長田 歸郷
一〇二	明治 年	明七・〇・六	死去	芳野 親義	一一九	"	明八・一・五	惠與渡	山崎 幸平
一〇三	明三・一	明九・五	除名	古川 孝七	一二〇	"	"	"	中 定 勝
一〇四	"	明九・五	除名	山本市五郎	一二一	"	明六・二・九	死去	鹿島 清左衛門
一〇五	"	明八・九	除名	太田 長次郎	一二二	"	明六・七・三	死去	金澤 良齊
一〇六	"	"	"	小山 兼吉	一二三	"	明五・二	退社	中川 幸藏
一〇七	"	明三・五	除名	宇賀神 實海	一二四	"	"	"	柴田 昌吉
一〇八	"	明八・九	除名	林 和 作	一二五	"	明四・一・二	死去	棚橋 寛十郎
一〇九	"	明六・二	退社	伴 松之助	一二六	"	明四・四	退社	恩田 清治
一一〇	"	明五・七・四	死去	砂 押 漲	一二七	"	"	"	瀧澤 直治
一一一	"	明五・七・四	死去	吉村 東稻	一二八	"	明八・四・七	除名	高橋 岩路
一一二	"	明五・七・四	死去	廣岡 逸人	一二九	"	明七・六・三	死去	築 雅 路
一一三	"	明五・七・四	死去	高田 政久	一三〇	"	明五・七・四	死去	犬塚 嘉十
一一四	"	明四・三・八	死去	長谷川 清	一三一	"	明九・五	除名	長川 新吾
一一五	"	明三・三・三	惠與渡	三瀨 謙三	一三二	"	明五・八・四	死去	松山 文平

第二編 會社資料



第二類 人保險之部

二〇一	明三・一	明六・六・三 除名	土橋 乘五郎	二二八	明三・一	明四・五	退社	杉山 勘三
二〇二	"	明六・八 除名	佐野川 成誠	二二九	"	明八・九	除名	行岡 庄兵衛
二〇三	"	明二・四・三 死亡 六・三 惠與渡	朝山 義六	二二〇	"	明九・二・三 死亡 三・三 惠與渡	除名	菅谷 金四郎
二〇四	"	明九・五 除名	田村 忠一	二二二	"			武野 平七
二〇五	"	明六・五 除名	秋山 正信	二二三	"			田畑 謙藏
二〇六	"	明六・五 除名	吉川 金兵衛	二二四	"	明三・二・九 死亡 二・三 惠與渡		塚原 靖
二〇七	"	明七・六・四 除名	鈴木 慧淳	二二五	"	明治十三年一月入社明治十四 年一月本人源助年相違ニテ 申出サセ積金差戻シ退社		豐邊 陳養
二〇八	"	明七・三 除名	牧野 大昭	二二六	"	明六・二・六 除名		山田 源助
二〇九	"	明八・五 除名	羽原 貞	二二七	"	明七・三 除名		小川 健造
二一〇	"	明五・九・〇 死亡 三・三 惠與渡	永島 良幸	二二八	"			八木 善十郎
二一一	"	明四・五 退社	猪橋 忠七	二二九	"	明三・一・一 死亡 一・四 惠與渡		丹羽 正信
二一二	"	明六・三 除名	濱中 忠道	二三〇	"			小林 倉次郎
二一三	"	明六・六・三 除名	高藤 千尋	二三一	"			鶴岡 長次郎
二一四	"	明六・六・七 除名	田邊 央立	二三二	"			原田 元信
二一五	"	明五・二 退社	山口 種降	二三三	"			松山 棟庵
二一六	"	明五・二 退社	松野 顯藏					中川 茂吉

一八〇

第二編 會社資料

二三四	明三・一	明五・八・九 死亡 一〇・五 惠與渡	宮川 雄平	二五一	明三・一	明九・九・六 死亡 三・六 惠與渡	松本 嘉三郎
二三五	"	明九・一・〇 死亡 三・三 惠與渡	陽 其二	二五二	"	明六・七・六 死亡 八・元 惠與渡	中根 良夫
二三六	"	大六・四・二 死亡	安藤 就高	二五三	"	明五・七 退社	土肥 平太郎
二三七	"	明五・二 退社	今井 良一	二五四	"		幸田 克己
二三八	"		山内 半造	二五五	"	明三・四・二 死亡 五・三 惠與渡	關口 直重
二三九	"		森村 市太郎	二五六	"	明六・二 退社	柳 明德
二四〇	"		大倉 孫兵衛	二五七	"	大六・二・〇 死亡	清水 光儀
二四一	"		濱 弘一	二五八	"	不詳	山田 成章
二四二	"		片山 尙綱	二五九	"		齋藤 匪石
二四三	"		川村 正平	二六〇	"	明四・二 退社	多加谷 奮吾
二四四	"	明七・四・三 死亡 五・〇 惠與渡	佐々木 支陰	二六一	"	明七・六・五 死亡 七・三 惠與渡	前野 氣城
二四五	"		藤木 經立	二六二	"		山本 誠之
二四六	"	明九・五 除名	宇都野 正武	二六三	"	明五・〇 退社	安西 精敏
二四七	"	明六・五・六 退社	川名五左衛門	二六四	"	明四・一・五 死亡 三・元 惠與渡	加藤 萬兵衛
二四八	"		宮木 經吉	二六五	"		笠原五郎兵衛
二四九	"		鹽崎 善郎	二六六	"		河野 榮次郎
二五〇	"		山中 安吉	二六七	"		海老原 和一

一八一

第二類 人保險之部

二六八	明三・一	明三・五三 死去	渡邊 昇	二八五	明三・一	明三・一三 死去	貴島 兼誼
二六九	"	八三三 惠與渡	野口 隆吉	二八六	"	五・元 惠與渡	石渡 貞夫
二七〇	"	明九・九・六 死去	西村 貞陽	二八七	"		川崎 正藏
二七一	"	二・元 惠與渡	遠武 秀行	二八八	"		中牟倉之助
二七二	"	明六・六・六 除名	木村 莊平	二八九	"	明四・三・六 死去	岩瀬 公圃
二七三	"		小林 好愛	二九〇	"	明三・五・五 惠與渡	久保利 恒
二七四	"		横山 岩二郎	二九一	"	明四・一・三 死亡	前橋 爲三郎
二七五	"		駒井 ウタ	二九二	"	明五・七・元 互救金渡	篠原 則伴
二七六	"	明六・五 社則不同社 意=付退	山崎 潔	二九三	"	明五・七・元 惠與渡	三浦 清俊
二七七	"	明九・五 除名	長谷門之助	二九四	"	明三・六 除名	岩村 兼善
二七八	"	明六・三・七 退社	高木 善兵衛	二九五	"	明三・六 退社	福島 敬典
二七九	"	明九・五 除名	澤 美津	二九六	"	明三・六・五 死去	八代 清之助
二八〇	"		波多野 央	二九七	"	明三・七・三 惠與渡	廣田 重助
二八一	"	明六・九 除名	秋山 行長	二九八	"	明六・九 除名	大谷 金次郎
二八二	"	不詳	大竹 重助	二九九	"		中井 弘
二八三	"	明七・二 退社	與倉 東雄	三〇〇	"	明六・九 除名	田村 庄兵衛
二八四	"	明三・四・一 死去 五・一 惠與渡	横山 貞秀	三〇一	"	明三・八 死去 七・一 惠與渡	安田 定則

三〇二	明三・一		三好 退藏	三一九	明三・一		廣瀬 進一
三〇三	"		有島 武	三二〇	"	明六・〇・七 退社	原田 彌美
三〇四	"		三間 正弘	三二一	"		天野 仙輔
三〇五	"	明九・五 除名	安立 利綱	三二二	"		松尾 呂善
三〇六	"	明九・五 除名	大森 敬三	三二三	"		辻 金五郎
三〇七	"	明三・三 除名	香渡 眞認	三二四	"		高橋 甚兵衛
三〇八	"	明九・五 除名	滑川 光亨	三二五	"		宏 佛海
三〇九	"		宮永 卓茂	三二六	"		河原 徳立
三一〇	"		比田 源吉	三二七	"	明六・七 除名	田中 金次郎
三一一	"		喜谷市郎左衛門	三二八	"	明六・六・三 惠與	松下 信藏
三一二	"	明九・五 除名	村上 敬次郎	三二九	"	明九・六・元 死去 七・五 惠與	石川 庄次郎
三一三	"	明九・五 退社	長谷部 仲彦	三三〇	"		長谷川 千藏
三一四	"	明九・五 除名	加藤 斌	三三一	"		稻生 豊次郎
三一五	"	明六・九・六 退社	水野 行敏	三三二	"	明五・八・四 死去 六・二 互救金渡	田山 彌吉
三一六	"	明六・一 退社	山野 彌兵衛	三三三	"	明六・七・二 退社	清水 豊平
三一七	"		辻 亦兵衛	三三四	"	明六・二・四 死去 二・元 互救渡	相樂 徳重
三一八	"		田澤 靜雲	三三五	"	明六・四・七 死去 六・四 惠與	藤枝 玄道

第二編 會社資料

第二類 人保險之部

三三六	明三・一	渡邊 篤	三五三	明三・一	明六・九	社則改正 但持寄金八圓ハ 返付セズ	多田 賢住
三三七	"	沼崎 彦兵衛	三五四	"	明三・五	除名	山田 善兵衛
三三八	"	藤井 惟利	三五五	"	明三・五	社則改正 =付退社	奥山 瀧次郎
三三九	"	八洲 亨	三五六	"	明六・五	除名	前田 貫一
三四〇	"	養老 秀吉	三五七	"	明六・五	除名	早矢仕 民治
三四一	"	寺島 清	三五八	"	明六・五	除名	安藤 浩
三四二	"	嘉山 新兵衛	三五九	"	明五・二・六	退社	水野源右衛門
三四三	"	吉田 富吉	三六〇	"			高瀬 徳五郎
三四四	"	齋藤 鏡太郎	三六一	"			鈴木 理三郎
三四五	"	砂 押 章	三六二	"			相原 安次郎
三四六	"	島地 黙雷	三六三	"			目黒 忠利
三四七	"	堀川 長吉	三六四	"			山下 久兵衛
三四八	"	澤田 眞孝	三六五	"			二橋 元長
三四九	"	横山 遠平	三六六	"			藤井 武太郎
三五〇	"	高橋 有則	三六七	"			石橋 庸
三五一	"	伊東 之一	三六八	"			星野 長太郎
三五二	"	森 國寶					

一八四

第二編 會社資料

三六九	明三・一	大橋 眞六	三八六	明三・一			小野 金六
三七〇	"	新井 景作	三八七	"			井口 昌威
三七一	"	木曾 正藏	三八八	"			輿水 正純
三七二	"	深澤 勝興	三八九	"			浅井 晴文
三七三	"	藤田 彌兵衛	三九〇	"			荒島 正雄
三七四	"	藤田 友吉	三九一	"			山本 直成
三七五	"	山田 鏗馬	三九二	"			辻 棗
三七六	"	山田 志馬	三九三	"			加藤 直方
三七七	"	高橋 五助	三九四	"			佐々木 祐寛
三七八	"	加藤 安積	三九五	明治 年			藤林 廣顯
三七九	"	綾部 誠一	三九六	明三・一			松村 鐵五郎
三八〇	"	千原 幸右衛門	三九七	"			川路 寛堂
三八一	"	市川 好三	三九八	"			庄司 伊之助
三八二	"	堀江 小十郎	三九九	"			日野 春草
三八三	"	加藤 昌壽	四〇〇	"			谷 傳四郎
三八四	"	小宮 正昇	四〇一	"			福住 英勇
三八五	"	荒川 久	四〇二	"			郷 条太郎

一八五

第二類 人保險之部

四〇三	明三・一	明四・三	退社	吉岡 保道	四二〇	明三・一	大内 青巒
四〇四	"	"	"	川本 清一	四二一	"	加藤 九郎
四〇五	"	"	"	水原 久雄	四二二	"	子安 峻
四〇六	"	明三・四・二	死去	林 鬱	四二三	*記入ナシ	
四〇七	"	八・二	惠與	高木 貞作	四二四	明三・一	依田 百川
四〇八	"	明九・五	除名	高田 千秋	四二五	明九・二	熊谷 武五郎
四〇九	"	明六・六・三	除名	大澤 正交	四二六	明四・六	内藤 正明
四一〇	"	明三・五	除名	小山 次郎	四二七	明三・〇・六	山内 芳秋
四一一	"	明三・〇・六	死去	安田 長吉	四二八	明三・五	杉浦 義徳
四一二	"	明三・〇・六	惠與	安田 長吉	四二八	明三・〇・六	西村 庫次郎
四一三	"	明三・〇・六	惠與	石川 吉兵衛	四二九	明三・二・三	矢島 嘉兵衛
四一四	"	明三・三・三	死去	堤 正己	四三〇	明三・四・三	河津 祐雄
四一五	"	明三・六・四	惠與	市郷 弘義	四三一	明九・五	石井 忠亮
四一六	"	不詳	"	山口五左衛門	四三二	"	古筆 了悦
四一七	"	明五・二	退社	安井 美省	四三三	明三・五	關 方高
四一八	"	明三・七・四	死去	肥田 昭作	四三四	明三・五	岩松 純行
四一九	"	二・三	惠與	小川 亥之作	四三五	明九・五	落合 幾次郎
四二〇	"	明三・一	退社	岡田 棣	四三六	"	

第二編 會社資料

四三七	明三・一	西田 傳助	四五四	明三・一	北村 重禮
四三八	"	成島 柳北	四五五	"	人見 恒民
四三九	"	末廣 重恭	四五六	"	齋藤 政吉
四四〇	"	木村 喬一郎	四五七	"	長谷川 楚教
四四一	"	北村 文倫	四五八	"	上田 庸熙
四四二	"	川島 彌太郎	四五九	"	宮内 盛高
四四三	"	渡部 欽一郎	四六〇	"	鮫島 武之助
四四四	"	安田 忠兵衛	四六一	"	松下 忠兵衛
四四五	"	安田 善四郎	四六二	"	徳田 卯之助
四四六	"	吉川 長兵衛	四六三	"	清田 長秋
四四七	"	藤居 甚兵衛	四六四	"	高山 紀新
四四八	"	淺田 正文	四六五	"	石坂 惟寛
四四九	"	小泉 信吉	四六六	"	山田 平右衛門
四五〇	"	莊田 平五郎	四六七	"	楠本 正隆
四五一	"	鈴木 要三	四六八	"	吉川 五兵衛
四五二	"	林 蒼助	四六九	"	西村 吉藏
四五三	"	安田 善次郎	四七〇	"	太田 清助



第二類 人保險之部

一八八

四七一	明三・一	不詳	池田 徳淫	四八六	明三・一	明二四・二五死亡 六三全額惠與渡	關口 清之
四七二	"	"	加藤 治幹	四八七	"	明二九・五 除名	松尾 儀助
四七三	"	明七・七 除名	野條 きみ	四八八	"	"	大伴 千秋
四七四	"	明八・五 改革ニ付 退社	横尾 金一	四八九	"	"	信澤 忠良
四七五	"	"	青木長右衛門	四九〇	"	明九・五 除名	田口 一忠
四七六	"	明五・七・四死去 七・七 惠與渡	吉田 定次郎	四九一	"	明八・七・三死去 一〇・三 惠與渡	堀内 正路
四七七	"	明六・二 退社	好本 忠璋	四九二	"	明三・八・五死去 八・六 惠與渡	金子 精一
四七八	"	明六・二 除名	富永 兼正	四九三	"	明五・二 沒收	岩崎半右衛門
四七九	"	明三・三 退社	大師堂 正義	四九四	"	明九・五・七死去 七・〇 惠與渡	立松 政房
四八〇	"	明九・七・六死去 九・三 惠與	正木 仙藏	四九五	"	明〇・五 除名	立松 忠恒
四八一	"	明〇・五 除名	近藤 孝行	四九六	"	"	川崎八右衛門
四八二	"	明九・五 除名	沼崎 平四郎	四九七	"	明六・二 退社	白井 憲徳
四八三	"	明三・九・三死去 三・五 惠與渡	森 醇	四九八	"	明四・三 退社	岩本彦兵衛
四八四	"	不詳	山本 復一	四九九	"	明六・〇 退社	濱田 清補
四八五	"	"	前田 忠和	五〇〇	"	"	長與 專齋

【註】本名簿ハ安田生命保險會社所藏ノ明治二十五年十二月附人名簿ニヨリ第一回社員氏名ヲ抄録シタルモノナリ

社員大集會ノ豫報 (47)

東京横濱毎日新聞 第二七三九號 明治十三年一月二十二日

○共濟五百名社は追々盛大に趣き入社するものに多く殆んど満員に至らんとするものとなるか來二月十五日頃に淺草門跡を借受け社員の大集會を催すとのこと

讀賣新聞 第二五一九號 明治十三年二月十三日

○共濟五百名社は明後十五日の午前九時に淺草東本願寺にて總集會を開き結約書を一同へ渡し親睦を結ばれます

幹事、委員 (49)

朝野新聞 第一九二三號 明治十三年二月十三日

共濟五百名社の幹事は

安田善次郎 子安 峻 瀧田正喬 肥田昭作 大内青巒 津田 仙 長谷川清 加藤九郎

第二編 會社資料

一八九

酒井覺醒 成島柳北

委員は

麴町區 能勢久成 山科元行

赤坂區 河田景福

神田區 藤田季莊 武川 武

本所區 丸山傳右衛門 榎本吉三郎

日本橋區 天野可春 明林權兵衛

京橋區 隈川宗悅 山下知行 櫻井敬三

芝 區 相原安次郎 小山 保

牛込區 銀林綱男 阪井保祐

四ッ谷區 柳 明德 早川重高

小石川區 武 昌吉

麻布區 住吉正厚

深川區 鹿島清左衛門 増田真夫

淺草區 高松凌雲 猪橋忠七

下谷區 丹羽正信 棚橋寛十郎

本郷區 豊島陳善 三瀨謙三

南豊島郡 朝比奈一 山田志馬

荏原郡 島山貞利

南葛飾郡 瓜生 寅

以上

【註】 讀賣新聞第一五二〇號（明治十三年二月十四日）ハ幹事十氏ノ氏名ヲ報知セリ

朝野新聞 第一九二六號 明治十三年二月十七日

共濟五百名社集會ノ記

明治十三年二月十五日ニ於テ共濟五百名社ノ人々淺草東派本願寺ノ別院ニ會シ以テ死後其ノ遺族ヲ恤ムノ盟約ヲ結ブ寔ニ是レ一美事ナリ抑モ該社ノ設立アルヤ泰西ノ所謂人命保險會社ト取

違へ洋學者流ハ生熟ノ別無ク喋々トシテ議論ヲ其間ニ挿メリ然レモ該社ノ發起人ハ更ニ素志ヲ變セズ、元來各自慈惠ノ心情ニ出テ、毫モ算盤上ノ利慾ニ拘泥セサルヲ以テ竟ニ今日ノ成功ニ及へリ、創業以來發起人ハ許多ノ金圓ヲ費ヤシ貴重ノ光陰ヲ消シタレモ更ニ厭フ所無ク汲々トシテ從事セシハ亦威服セザルヲ得サルナリ、是ノ日ヤサシモニ廣キ本願寺ノ堂宇ナレドモ五百人ノ人員一齊ニ參會セシカバ帽帽相摩シ肘々相接シ堂上實ニ紳士ノ市ヲ開キシト云フモ亦過言ニ非ス衆員ニ茶菓ヲ供シ午膳ヲ饗ス（辨當ニ非ス）其物タル豊美ナラサルモ五百人前ノ巨數ナレハ隨分手カ懸リシヲ知ル可シ、食堂ニ於テ幹事大内青巒君津田仙君該會ノ旨趣ヲ演說シ敝社ノ社長モ亦幹事ノ末ニ列スルヲ以テ祝辭ヲ奉レトノ命ヲ受ケテ之ヲ讀ミ衆員皆歡ヲ盡クシテ去リシト承ル

祝文

南葛飾郡須崎村ノ住民成島柳北不敏ヲ顧ミス本社ノ發起人幹事各位ニ代リ謹テ全社員諸君ニ向テ祝辭ヲ呈ス惟ルニ古來人生ノ友誼其ノ淺深同シカラサル有ルモ往々生ニ厚クシテ死ニ薄シ是レ仁人君子ノ毎ニ慨歎スル所トハ雖モ亦人情ノ免レ難キ所也苟モ務メテ其ノ薄キヲ厚ウセント欲スルニ非ザレハ竟ニ世ノ友誼ヲシテ壞亂滅裂ニ歸セシメ或ハ生前ニ兄弟視スル所ノ

人ト雖モ既ニ死シ去レハ曩裡掩ハズ狐狸之ヲ食フノ慘狀ヲ目撃スルモ棄テ、顧ミサルニ至ラントス若シ然ラハ其ノ禽獸ニ異ナル所以ノ者安クニカ在ルヤ、是レ共濟五百名社ノ因テ設クル所以ナリ而シテ斯舉ヤ實ニ長谷川清君、安田善次郎君ト謀ツテ之ヲ首唱シ柳北等從テ其說ヲ贊成シ朝野慈善ノ士亦多ク加ハリ數句ヲ出テスシテ以テ今日ノ成果ヲ見ルニ至リシ也其ノ規則ノ細目ニ於テハ未タ完全ナラサル所アルモ其ノ友誼ヲ身後ニ全クスルノ大旨趣ニ至テハ確乎トシテ既ニ立ツ誰カ復タ之ヲ非トスルヲ得ンヤ本日此ニ會同スルハ鈴木惠淳君ノ發議ニ出テ君實ニ安田君ト共ニ百事ヲ擔當セリ而シテ全社員諸君盡ク一堂ニ集リ以テ同盟ノ契約ヲ結フ何ノ慶カ之ニ若カン是レ一篇ノ祝辭無カル可カラサル所以ナリ、既ニ祝スルノ後ニ於テ柳北等窃カニ諸君ニ告タル所アリ夫レ本會ノ結約ニ於テ既ニ其ノ死ヲ厚ウスルノ友誼ヲ全ウスルヲ得タリ然レモ特リ其ノ死ニ厚クシテ其ノ生ニ薄キハ古來未タ嘗テ有ラサルノ事タリ希クハ諸君ヨ今ヨリ後益ス其生前ノ友誼ヲ厚クシ淑慝相戒メ禍福相助ケ同心協力シテ以テ國ニ益シ人ニ利スルヲ之レ務メンヲ若シ然ラハ其ノ友誼ヤ生死渝ルヲ無クシテ我五百名共濟ノ本意始メテ全キヲ得ン是レ柳北等ノ本社定則ノ外ニ於テ諸君ニ希望スル所以ノ者ナリ

報 總集會後 (51)

讀 賣 新 聞 第一五二二號 明治十三年二月十七日

○前號へ出した通り一昨日の午前十時より淺草の東本願寺にて共濟五百名社の總集會を開かれ幹事委員は夫レ夫レ課を分け順序を立て社員へ結約書を渡され幹事達の演說祝詞も有て幹事より社員一同へ午飯を饗されました

社員滿員 (52)

讀 賣 新 聞 第一五二三號 明治十三年二月十八日

○共濟五百名社の本社並に幹事方へ頻りに入社したいと申し込む者があるが、去る十五日に親睦會を開いた時既に滿員になつて居る事ゆへ今申し込みに成つても入社は出來ぬゆへ此趣を江湖の諸君へ傳へくれよと幹事方より申し越されました

五百名社 (53)

讀 賣 新 聞 第一五二七號 明治十三年二月二十二日

明治十三年二月十五日東京淺草本願寺にて共濟五百名社の親睦總集會を催さる余も其席末に

最初ノ死亡者 (54)

讀 賣 新 聞 第一六三二號 明治十三年六月二十七日

○共濟五百名社は本年一月の創立にて今日まで一人の死去もなかつたが去る廿四日の夜芝區琴平町二丁目の小山保氏が死去致されしに付該社より規約の通り遺族へ金千圓送られ又同社の幹事酒井氏は右の遺族のために殊のほか盡力され書記なども頻りに奔走さると云ふ

右ノ後報 (55)

讀 賣 新 聞 第一六三五號 明治十三年七月一日

○共濟五百名社の小山保氏の跡は其長男の小山良吉氏が引續いて入社され金千圓の内三百圓は

第二編 會社資料

列なりて嬉しさの餘り斯く出たらめを呻き出せり  
衆生濟度の親玉も今日をトして涅槃を示し猫を捨たる西行も其のきさらきの望を願ふ結伽跌座  
けは現世に仕盡し子孫へ残す千金は偏祖右肩に合掌してア、有難き集ひにぞある  
共に濟ふ數も羅漢の五百名  
跡になるのか尊者ござらぬ  
北 斗 翁

該社に預け其利子を掛金に宛られると云ふ

朝野新聞 第二〇三八號 明治十三年七月二日

○共濟五百名社員にて物故されし小山保氏の相續人良吉氏は規則に従ひ引續き入社せられ一昨日惠與金千圓を該社に於て幹事兩名立合ひ同氏に渡されたり、同氏は金七百圓を受領し三百圓を該社に預け右年一割の利子三十圓（即ち十五名分）を以て年々惠與に充つる事を契約せられたり右の方法に定むれば第二期の社員は掛金を別に出さずして後年其家族は千三百圓の金額を得るなり此方法の至極宜しければ幹事一同打合せ追々全員にも相談せんと協議中の由

第二期社員ニ對シテ預金ノ法ヲ開ク (56)

惠與金受領感謝廣告 (57)

讀賣新聞 第一六三九號 明治十三年七月六日

父保死去仕候に付御規則之通り御惠與金拜受仕難有奉存候 乍略儀新聞紙を以御禮申上候也

明治十三年七月

小山良吉

共濟五百名社各位

第二期社員入社 (58)

朝野新聞 第二一三三號 明治十三年十月二十四日

○共濟五百名社の山田龍司氏は肺病にて没せられし故社則に照らし惠與金を贈りしに遺孤は幼年なれば其内室艶子か戸主になられ引續き入社し、先比死去せし小山保氏の例にて惠與金三百圓を社中に預け其利子を以て惠與の豫ビに充てられ第二期の社員となられし旨同社より報知あり

又此比別に共濟千名會社といへるか創立になりたる由

共濟千名會社設立ノ報

明治十四年

朝野新聞 第二二〇八號 明治十四年一月二十八日  
讀賣新聞 第一八〇六號 明治十四年一月二十八日

(59)

共濟五百名社廣告

社員棚橋寛十郎殿死去被致候に付遺族へ成規の金員相渡後嗣棚橋國之助入社相成候間此段社員

社員後嗣入社廣告

第二編 會社資料

各位へ及御通知候也

共濟五百名社 幹事

(60)

讀 賣 新 聞

第一九二六號 明治十四年六月二十三日

○明後廿五日は芝紅葉館にて共濟五百名社の總集會を催され、安田善次郎氏が同社會計の出納を報告され、子安峻氏は規則追加の報告、成島柳北氏の祝文、津田仙氏の演說等ありて餘興に催される能は七騎落黒塚を二番とも寶生九郎が勤め狂言は不聞座頭、柿山伏、宗論でありますと

(61)

明治十四年六月二十五日總會決議

一、死者ノ相續人引續キ入社スル者其惠與金全額中ヨリ額面四百圓ノ金祿公債證書(七朱利付)ヲ買ヒ之ヲ本社ニ預ケ本社ハ之ヲ東京府廳ニ預ケ置キ其利子ヲ以テ惠與費ニ充テ有餘不足ハ之ヲ歲末ニ精算シテ本人ニ附與シ或ハ補償セシムベシ  
但シ非常特別ノ場合ニ於テハ幹事會議ノ上適宜處分スルコト有ルベシ

總集會ノ豫報

申合規則ノ附則

(62)

朝 野 新 聞

第二三三三號 明治十四年六月二十八日

共濟五百名社ノ總集會

五百名社ノ設立有リシ時ニ於テ世ノ小理窟ヲ言フ人々カ或ハ西洋ノ人命保險會社ノ法則ニ違フトカ或ハ之カ爲メ懶惰心ヲ起コス者カ出來ルテ有ロウ杯ト彼レ是レ故障ヲ申セシカ元來該社ハ慈善ヲ主義トスルヲ以テ自然人心ヲ感動シ一社ノ基礎全ク確立セシノミナラス全國中該社ノ規則ニ遵フテ建設セシ類似ノ會社頗ル多キヲ見ルニ及ヘリ豈喜シカラヌヤ去廿五日該社幹事芝公園内紅葉館ニ於テ本年度ノ總集會ヲ開キ社員其ノ家族ヲ率キテ來會スルヲ以テ全員殆ト一千人ニ近カリキ能樂二番狂言三番以テ衆賓ノ觀ニ供ス幹事安田善次郎君ハ客年ノ會計ヲ報道シ同子安峻君ハ規則追加ノ報告ヲ爲シ同津田仙君ハ長壽ノ法ト云フ演說有リ同成島柳北ハ左ノ祝文ヲ讀ム

總集會ノ後報

幹事成島柳北同僚十一名ニ代リ稽顙シテ滿堂ノ諸君ニ白ス會テ諸君ト共ニ創定セシ本社ノ規則第二十七條第二十八條ニ據リ此ニ明治十四年度ノ總集會ヲ開ク此會ヤ元春季ニ於テスキキ規定ナリシカ幹事中或ハ旅行シ或ハ事故有テ遷延今日ニ及ヒシナリ諸君職務ノ劇キ生業ノ忙ハシキヲ顧ミズシテ本日此ニ辱臨セラル我輩何ノ喜カ之ニ若カン而シテ諸君ノ熟知セラル、

第二編 會社資料

如ク本社ノ資金多カラスシテ歳入亦限リ有リ是ヲ以テ諸君ヲ待ツヤ苦若粗糲供具極メテ薄シ  
 諸君幸ニ諒セヨ本日此ニ奏スル散樂數曲以テ諸君ノ觀覽ニ供スル者ハ同僚安田善次郎カ客年  
 以來商業ノ贏餘有ルヲ以テ其費ヲ擲テ聊カ諸君ト共ニ半日ノ閑ヲ娛マントスルノ厚意ニ出ヅ  
 ル者ニシテ我輩幹事カ敢テ濫リニ社中ノ資金ヲ消費スルニ非ス諸君又幸ニ諒セヨ夫レ人死ス  
 ルノ悲ミ有テ而シテ生クルノ樂ミ有ルヲ知ル本社ノ設立ヤ實ニ其ノ悲ムノ時ニ於テ相救濟ス  
 ルカ爲メナレバ亦何ゾ其ノ樂ムノ日ニ於テ相歡晤スルヲ無カレ可ケンヤ是レ本日ノ集會ニ於  
 テ我輩カ深ク諸君ト一堂ニ相見ルヲ喜フ所以ナリ回顧スレバ客年一月諸君ト共ニ此社ヲ創建  
 セシヨリ茲ニ十有八月ヲ經タリ而シテ社員ノ不幸ニシテ黃壤ニ歸シタル者僅ニ五名ニ過キス  
 其ノ健全恙無クシテ此ニ會スル者ハ四百九十五名ナリ我輩ハ五名ノ爲メニ深ク其ノ不幸ヲ悲  
 ムト雖モ焉ンゾ更ニ四百九十五名ノ爲メニ其ノ健康ヲ賀セサルヲ得ンヤ希ハクハ明年ノ總集  
 會ニ於テ全社ノ諸君一名モ缺クルコト無クシテ再ヒ此ニ相會シ共ニ歡晤慶賀スル今日ニ同ジ  
 カランヲ敬テ祝ス

午後一時場ヲ開キ六時ニシテ散ス此ノ日滿場融々雍々ノ氣象ハ筆墨ノ能ク寫シ得可キ所ニ非ス  
 會員中猶一層親睦ヲ厚ウスルノ方法ヲ計畫セントノ發議ヲ爲セシ者有リシト聞ク其ノ詳ナルヲ

聽得ハ之ヲ他日ニ記セン

明治十五年

朝野新聞

第二七一五號

明治十五年十一月四日

廣告

- 第九十五號 楠見信 貴名宛
- 第九十九號 牧寺信 一名宛
- 第四百四十九號 小泉信 吉名宛
- 第四百六十六號 山田平右衛門名宛
- 第四百九十三號 岩崎半右衛門名宛

右番號記載の本社盟約書所有者今般除社致候に付證書は本社へ引上ぐべき筈の處紛失又は所在  
 不明の趣につき該證書自今廢紙たるへく候依て此段廣告候也

日本橋區小舟町三丁目

第三銀行内

明治十五年十月

共濟五百名社幹事

第二編 會社資料

1101

第二類 人保險之部

二〇二

朝野新聞 第三〇三一號 明治十六年十一月二十四日

共濟五百名社規則第二十八條に依り十五年度金銀出納の計算報告すると左の如し

一金壹千三十九圓六十三錢四厘 十四年ヨリ繰越金

一金九拾壹圓五十一錢 十四年度未納金收入

一金九千九百三十九圓六十三錢 十五年度收入金

合計壹萬壹千七十圓七十七錢四厘

内

金壹萬二百四十二圓八十六錢 十五年度仕拂金

差引残

金八百二十七圓九十一錢四厘 第三國立銀行へ現金預ケ

外ニ

金五百六十二圓三十一錢 十五年中惠與掛金未納督促中

七分金祿公債證書四千四百圓 本社積金公債證書東京府廳へ預ケ置

金壹千二百圓

七分金祿公債證書四千圓

收入ノ部

社員四名ヨリ預リ第三國立銀行へ預ケ置

社員十名ヨリ預リ内七名分ハ東京府廳へ預ケ置ク

一金九千五百八十七圓六十九錢 社員十名死去ニ付掛金

一金三百八圓 金祿公債證書四千四百圓利子

一金四十三圓九十四錢 除名六名ノ没收金

合金九千九百三十九圓六十三錢

仕拂ノ部

一金壹萬圓 社員十名惠與金

一金貳百四十貳圓八十六錢 書記給料慰勞金、小遺手當雜費及幹事委員集會費トモ

合金壹萬貳百四十二圓八十六錢

右之通相違無之依テ社友一同へ報道致候也

東京日本橋區小舟町三丁目 第三國立銀行内

明治十六年十月

共濟五百名社 幹事

第二編 會社資料

二〇三



(65)

總集會ヲ  
催ス

明治十六年

朝野新聞

第三〇〇四號

明治十六年十月二十一日

共濟五百名社は本日午後二時淺草本願寺に於て本年度の總集會を催し社員を響應せらるゝとの事

明治十七年

郵便報知新聞

第三三五九號

明治十七年五月十九日

東京日々新聞

第三七三五號

明治十七年五月二十四日

本社同盟中欠員有之候間御加盟有之度向は當扱所へ御來請被下度候也

明治十七年五月

日本橋區小舟町三丁目

第三國立銀行内

共濟五百名社

(66)

欠員廣告

(67)

明治十七年  
收拂廣告

郵便報知新聞

第三六四五號

明治十八年四月二十一日

共濟五百名社十七年度收拂廣告

收入ノ部

一七分金祿公債證書高一萬千六百圓

十六年度ヨリ繰越

一金千六百十九圓五十九錢八厘

十六年度ヨリ繰越

一金七千三百三十四圓三十九錢

社員掛金

一金三百八圓

本社預金利子

一七分金祿公債證書高二千八百圓

社員ヨリ預リ額

一金千二百圓

社員ヨリ預金

合計

七分金祿公債證書一萬四千四百圓

金壹萬四百六十一圓九十八錢八厘

仕拂ノ部

一金七千圓

社員死去七名惠與金

第二編 會社資料

第二類 人保險之部

二〇六

一金二百六十三圓四十九錢八厘

郵便稅并、書記給料其他雜費

合計金七千二百六十三圓四十九錢八厘

差引現在高

一七分金祿公債證書一萬四千四百圓

是ハ東京府廳へ預ケ

一金三千百九十八圓四十九錢

是ハ第三國立銀行へ預ケ

右ノ通相違無之候也

明治十八年四月

幹 事

共濟五百名社々員 御中

明治十八年

共濟五百名社申合規則 (第二改正)

明治十八年四月(安田本社所藏印刷本ニ依ル)

第二改正  
申合規則

(68)

凡ソ吾人ノ世路ヲ經過スルヤ幾浮沈幾苦樂ヲ歷ル實ニ測ル可ラス而シテ天災地變ノ如キハ敢テ逃ルニ道ナキニ非スト雖モ獨リ逃ル可ラサル者ハ命數ナリ故ニ人ノ父母タル者幼弱ノ子女

ヲ遺シテ遠逝スルノ時ニ際シ實ニ餘財ノアルニ非サレハ其孤兒將來生計ノ如何ヲ患ヒ或ハ地下ニ瞑スルコト能ハサルノ歎ナキヲ免カレス然ルニ之ヲ救濟スルニ道アリ是吾輩ノ此社ヲ設立スル所以ナリ抑モ該社タルヤ泰西ノ人命保險會社ト少シク異ナル有ルモ慈惠ヲ第一主義トシ有志ノ者同盟シ以テ一社ヲ結ヒ社中死者アルニ臨ミ遺族ニ金員ヲ惠贈シ之ヲシテ生計ヲ立シムルノ一助ト爲シ其遺族ヲシテ死ニ喪シテ憾ミナク死者ヲシテ地下ニ瞑スル能ハサルノ歎ナカラシメントス而シテ生産富饒ニシテ敢テ我カ遺族ニ顧慮スル計無キ者モ亦入社スルハ蓋シ他ヲ救濟スルノ慈心ニ出ツルノミ然リト雖モ當初組織セシ規則ノ如キハ年月ヲ經ルニ從ヒテ今日ハ多少ノ缺典ナキヲ免カレス故ニ茲ニ明治十八年四月社員總體ノ決議ニ於テ第二ノ改正ヲ行ヒ今更ニ其改正増補シタル條款ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條

一 本社ハ假リニ日本橋區小舟町三丁目第三國立銀行中ニ置キ社員ハ五百名ト定ム

第二條

一 年齡五十歲以下十五歲以上ニシテ無病ノ者ニ限リ本府ノ本籍ト寄留トヲ問ハス一戸ニ主タル者此申合規則ヲ遵守スルニ於テハ醫師ノ診察ヲ經テ入社スルヲ得ヘシ

編 會社資料

二〇七

但第二期以下ノ社員ハ戶主極老或ハ幼少ナル者ニシテ其父母或ハ相續人ノ中ニテ入社ヲ請フ者ハ之ヲ許ス可シ

第三條

一 入社ノ者ハ第一號雛形ノ證ヲ與ヘ以テ社員タルヲ約ス

第四條

一 入社ノ者ハ第二號雛形ノ結約書ヲ差出サシム

第五條

一 府下區郡ノ社員ヨリ每一區郡ニ委員一二名ツ、ヲ幹事ニ於テ之ヲ選ヒ其區郡内社員ノ事ヲ辨理セシメ之ヲ本社ノ議員ニ充ツ且此委員中ヨリ幹事十名ヲ互選シテ社中一切ノ事務ヲ總理セシム

但幹事委員共無給ニシテ幹事ハ壹ケ年ヲ以テ期限トス尤重選スルモ妨ナシ

第六條

一 社中或ハ社外ノ者ヲ以テ書記二名小使一名ヲ置キ幹事ノ指圖ヲ受ケ會計簿記等ノ事ヲ掌ラシム

第七條

一 創社ニ付持寄金トシテ各員ヨリ金八圓ヲ出シ(合金四千圓)之ヲ積金トシ之カ利子ト豫備金ノ利子等ヲ以テ書記小使ノ給料其他筆墨紙ノ雜費ニ充ツ

第八條

一 社員ハ月掛金トシテ毎月廿五日限リ金貳圓ツ、本社ニ出金スヘシ其合金千圓ハ之ヲ國立銀行ニ預ケ社員中物故スル者アルニ際シ第一號ノ證券ト引換ヘ之ヲ第九條ニ定メタル金額ニ區別シテ其遺族ニ惠與ス

但本人ヨリ遺族中金員ヲ受領スヘキ者一名或ハ數名ヲ定メ置キ必ス之ヲ本社ニ報シ置クモノトス

第九條

一 第一期ノ社員死去スレハ其遺族ヘハ惠與金千圓ノ内金七百圓ヲ渡シ跡三百圓ハ第三號雛形ノ通り證券ヲ渡シテ本社ニ積立置キ年八分ノ利子ヲ附シ之ヲ第二期社員(即死者跡加盟人)ノ月掛金元資ニ充ツ

但シ六分利付七分利付ノ公債證書四百圓ヲ差出シ置クモ妨ナシ

第十條

一 本社積立金及第二期社員ノ月掛元資金公債證書ノ分ハ東京府廳ニ預ケ現金ハ幹事協議ノ上確實ナル國立銀行ニ預ケ其預ケ金證券ハ本社ニ保存スヘシ

第十一條

一 社員ハ何時ニテモ本社ニ臨ミ帳簿及金錢ノ出納等ヲ検査スルノ權アルヘシ

第十二條

一 第二期以下ノ社員死去スルハ第一期社員死去ノ月掛元資ヲ本社ニ積立置キアルヲ以テ惠與金ノ全額金千圓ヲ渡ス可シ

第十三條

一 若シ死者一ヶ月ニ幾名アルモ社員ハ月掛金ノ外ハ出金セサルモノトス故ニ惠與金ハ必ス其順ヲ以テス可シ死者數多ニシテ惠與ノ順三ヶ月後ル、モノトセハ其三ヶ月分ノ掛金ハ其死者ノ遺族ヨリ出金スルモノトス

但死者ノ數少ナクシテ月掛金ヨリ惠與金ヲ引去リ其餘分ノ金額アレハ國立銀行ニ利付當座預金ト爲シ以テ惠與金ノ豫備ト爲スヘシ

第十四條

一 社員中都合ニ依リ月掛金ノ豫備トシテ若干金ヲ本社ニ委托シ置クモ妨ナシ

第十五條

一 遺族ニ於テ受取リタル惠與金ハ都合ニ依リ全額或ハ其幾分ヲ本社ニ預ケ置クモ妨ケナシトス然ル上ハ相當ノ維持方ヲ盡力スルモノトス

第十六條

一 死者ノ遺族富裕ニシテ惠與金ノ全額或幾分ヲ辭シテ本社ニ返附スルハ其意ニ隨ヒ之ヲ別ニ社中ノ積金ト爲シ國立銀行ニ預ケ其利子ハ社中ノ入費ニ充ツヘシ

第十七條

一 惠與金ヲ受タル相續人ハ第九條ニ定メタル如ク月掛金ノ元資金ヲ出シテ必第二期社員タルトヲ肯セサルヲ得ス若シ相續人ナキハ其戸主タル者又惠與金ヲ受タル者之ニ代ルヘシ但第一期社員ノ相續人年齢身體合格ナラサル歟又ハ止ムヲ得サル事故アリテ死去跡引續キ入社シ能ハス或ハ他人ヲシテ之ニ代ラシメ難キ者ハ惠與金ノ内金三百圓ハ本社維持ノ元資トシテ積立置キ其利子ヲ月掛金ニ充テ置キ追テ合格ノ者ヲ待テ入社セシムヘシ

第十八條

一 不得止事故アリテ退社セントスル者ハ幹事ノ認可ヲ得テ代員ヲ入社セシム可シ  
但シ代員ハ第貳條ノ本項及第四條ニ依ルヘシ

第十九條

一 社員年齡七十以上ニ及ヘハ本人ノ望ミニ因テ先ツ半額ヲ渡スコトヲ許ルシ又其半額ハ死去ノ後チ之ヲ渡スヘシ  
但シ月掛金元資金ヲ出スコト又本人死去シタルキ第二期社員ヲ出スコトハ第九條及第十五條ノ通りタルヘシ

第二十條

一 本人月掛金ヲ怠リ保證人亦之ヲ弁納セサル者アリテ六次ニ及ヘハ本人ニ告知シテ之ヲ除社ス而シテ其代員ハ幹事ニ於テ合格ノ者ヲ入社セシムヘシ  
但此場合ニ在リテハ持寄金掛込金ハ返付セス

第二十一條

一 轉籍移住改氏名ナシタルキハ直チニ之ヲ本社ニ報道スヘシ

第二十二條

一 外國若クハ内地ニ出張スルコトアラハ月掛金ハ其家族或ハ證人ヨリ納ムヘキモノトス故ニ出發前本人ヨリ其人ヲ定メ本社ニ報スヘシ

第二十三條

一 家族ヲ擧ケテ外國又ハ他府縣ニ移住スル者ハ親類等ノ内府下居住ノ者ヲ引受人ト定メ其者ヨリ月掛金ヲ納メシムヘシ  
但引受人ニ於テ月掛金ヲ怠リタルキハ本人同様タルヘシ

第二十四條

一 社員中他國ニ於テ死去ナシタルキハ該地醫師二名以上ノ診察書ヲ添府下ノ引受人及親類連署ノ證書ヲ死者ノ相續人ヨリ差出スヘシ  
但シ本條ノ場合ニ於テハ本社ヨリ書記ヲ派出シテ其實際ヲ調査爲サシムルコトアルヘシ且本條ノ派出員ニ係ル入費ハ死者ノ相續人ヨリ支弁スルモノトス

第二十五條

一 社員死去スルキハ勿論其他緊要ノ件々ハ本社ヨリ時々之ヲ各員ニ報告スヘシ

第廿六條

一 毎年二月一ケ年中死者ノ員數惠贈金給料雜費一切出納ノ模様ヲ各員ニ報告スヘシ

第廿七條

一 毎年三月委員一同集會シテ次期ノ幹事ヲ撰擧スヘシ時トシテハ社員一同ニ及フコトモ有ヘシ

第廿八條

一 社中重大ノ議事ハ過半數ヲ以テ議決スヘシ其議事ハ惣會議又ハ書面ヲ以テ諾否ヲ問フモノトス

但通常ノ議事ハ委員會ニ於テ出席員ノ過半數ヲ以テ議決スヘシ

第廿九條

一 此申合規則ハ明治十三年三月本社創立ヨリ施行ノ分ヲ明治十七年十一月委員會ニ於テ改正ノ決議ヲ爲シ茲ニ明治十八年四月社員總體議ノ過半數ヲ以テ第二改正申合規則ト爲ス依テ以前ノ規則ハ此申合規則實行ノ日ヨリ其効力ナキモノトス

第三十條

一 此申合規則ハ明治十八年五月一日ヨリ實行ス後年ニ至リ思想外ノ變遷アルト雖モ總會議決

ノ上ナラサレハ加除改定スルコトアルヘカラス

明治十八年四月

共濟五百名社

幹事

安	子	長	肥	瀧	川	大	加	酒	津	大
田	安	谷	田	田	崎	内	藤	井	田	槻
善	安	川	昭	正	正	青	九	默	文	彦
次	峻	清	作	喬	藏	巒	郎	喲	仙	
郎										

第壹號雛形

共濟五百名社々員之證

印紙

何ノ 某

一貴殿ノ社員タルヲ證シ此證券ヲ付シ遺族へ金千圓ヲ惠  
與センヲ盟約ス仍テ如件

年 月 日

共濟五百名社印

幹事 某

某

某

第貳號雛形

印紙

本籍  
寄留地

某  
生年月 何年何ヶ月

社則ヲ遵守シ毎月ノ掛金無遲滯相納可申候仍テ如件

明治 年 月 日

右

某 印

前書ノ通相違無之本人出金相滯候ハ、拙者ヨリ弁納可  
致候

保證人宿所

某 印

共濟五百名社 御中

印紙

月掛元資金受領之證  
金參百圓也

一某殿儀死去被致社則ニ基キ惠與金千圓ヲ相渡候内本社申  
合規則第九條之通月掛元資金正ニ受領候仍テ如件  
年 月 日

共濟五百名社

幹事

同 何ノ 某印  
何ノ 某印

第二期社員

某 殿

明治十三年三月

本社發起人

銀 林 綱 男  
成 島 柳 北  
子 安 峻  
安 田 善次郎  
川 崎 正 藏  
川 崎 八右衛門  
市 川 好 三  
鹿 島 清左衛門  
鈴 木 慧 淳  
長 谷 川 清  
加 藤 九 郎



第二類 入保險之部

郵便報知新聞

第三六四二號

明治十八年四月十七日

二二〇

廣告

本社々員中犯則ノ者除名致候ニ付欠員有之候間有志ノ御仁ハ本社々員ノ紹介ヲ以テ御來談有之候ハハ社則ニ照シ御入社致候也

明治十八年四月

日本橋區小網町三丁目

第三國立銀行內

共濟五百名社

犯則者除名に付募集廣告

柳北仙史肖像贊并序

朝野新聞

第三四八五號

明治十八年六月二十四日

共濟五百名社ノ社員諸氏ノ創意ニテ弊社ノ故成島柳北翁ノ肖像ヲ石ニ鐫リ向島ニ建設セントテ明教社ノ大内青巒氏ノ撰バレル贊辭并ニ序文ハ左ノ如シ

柳北仙史肖像贊并序

仙史名弘字保民。成島氏以ニ別號柳北ニ爲ニ通稱。仕幕府。歷侍講。實記編纂長。騎兵頭。外國奉行。

會計總裁叙從五位下。任大隈守。列參政。明治維新之際。辭職歸田。七年爲ニ朝野新聞社長。專以ニ利國福民ニ爲ニ已任。安田善次郎子安峻諸君之創ニ立共濟五百名社。仙史與有力焉。十七年十一月三十日病歿享年四十八。仙史好學善詩文。其歲晚感懷曰。隙駒驅我疾ニ於梭。四十星霜容易過。文苑偏憐才子句。教坊徒聽美人歌。青雲黃壤舊知少。綠酒紅燈新感多。好是寒梅花上月。稜々風骨奈君何。又能ニ國歌。會對月曰。都奇也和禮和禮也都奇可登於毛布萬天久未那幾都奇爾須武許已呂加奈。其風采可想。頃共濟五百名社員等。鐫ニ仙史像於石ニ以謀不朽余因作之贊曰  
嗟乎此是柳北仙史之像耶。仙史才名轟天下。五百惠人釀千金。歸ニ賄途ニ賄恤ニ孤寡。孤寡護ニ安死者。君能創之共濟社。照肖鐫石不可磨。長與墨江傳瀟灑。秋葉之月白髭花。魂兮魂兮何不ニ來賞ニ自家風雅

明治二十年

東京日々新聞

第四六七一號

明治二十年五月五日

郵便報知新聞

第四二七五號

明治二十年五月六日

共濟五百名社廣告

第二編 會社資料

二二一

本社欠員アリ入社御望ノ方ハ御來談アレ  
但シ入社金十圓

日本橋區小舟町三丁目

第三國立銀行内

共濟五百名社

共濟五百名社二十年度計算報告

一金千四百四拾六圓四拾八錢三厘

十九年ヨリ越金

一金壹萬千貳百三拾圓四拾三錢貳厘

廿年度收入金高

内 譯

金壹萬五百六拾八圓

月掛金收入高

金百三拾圓

入社金拾三名分

金三拾六圓

後備掛金延滞内入

金四百九拾六圓四拾三錢貳厘

本社積金公債證書及ヒ預金利子

合金壹萬貳千六百七拾六圓九拾壹錢五厘

仕 拂 ノ 部

一金壹萬千貳百五拾三圓九拾四錢九厘

廿年度仕拂金高

内 譯

金壹萬千圓

社中死去十一名ノ惠與

金拾七圓

郵 便 稅

金百五拾七圓

書記貳人給料

金八圓五拾錢

小使四人へ手當

金七拾貳圓四拾四錢九厘

諸 雜 費

差引 殘

金千四百貳拾貳圓九拾六錢六厘

外 二

金五百五拾貳圓

廿年度分未濟掛金

本社所有ニ係ル財産

第二類 人保險之部

七分金祿公債證書高三千貳百圓

本社積金公債證書

整理公債證書高千貳百圓

前同斷

金千四百貳拾貳圓九拾六錢六厘

現有金

社員ノ所有ニ係ル月掛元資預リ分

各種公債證書高五千三百七拾圓

二期社員十三名分

郵船會社株式券面三千三百圓

同 十一名分

金壹萬千九百五拾圓

同 三十九名

明治二十年

社員死去

拾名

入社員

拾九名

欠員

五拾八名

右之通相違無之候也

明治廿一年一月

共濟五百名社 幹事

本社申合規則第五條ニ依リ三月廿六日委員會ニ於テ左ノ十名ヲ幹事ニ選定致候也

- 安田善次郎
- 子安峻
- 長谷川清
- 肥田昭作
- 大内青巒
- 酒井默吟
- 大槻文彦
- 山本復一
- 高松凌雲
- 加藤九郎

第二類 人保險之部

明治二十二年

明治廿二年度金銭出納計算表

一金千參百拾六圓七拾貳錢貳厘	廿一年ヨリ越金
一金壹萬五百四拾壹圓八拾貳錢九厘	廿二年度收入金
内 譯	
金九千拾貳圓	月掛金收入高
金千百參拾貳圓五拾錢	同廿一年分延納
金貳百九拾九圓	積金公債利子
金八拾圓	入社金八名分
金貳圓	入社報告手數料
金拾六圓三拾貳錢九厘	預ケ金利子殘分
合金壹萬千八百五拾八圓五拾五錢六厘	
仕拂金ノ部	
一金七千貳百拾八圓九拾九錢三厘	廿二年度仕拂高

内 譯

金七千圓	社中死去七名ノ惠與
金百五拾六圓	書記二人給料
金八圓	小使手當
金八圓八拾錢	郵便及印紙稅
金貳拾四圓七拾九錢	委員集會費
金貳拾壹圓四拾錢三厘	諸 雜 費

差引殘

金四千六百參拾九圓五拾六錢三厘

外ニ

金千參百參拾貳圓	廿二年分掛金未濟
金千六百五拾六圓	同欠員ニ付損失

本社所有ニ係ル財產

七分金祿公債證書額面千五百圓

本社積金公債證書

第二類 人保險之部

二二八

整理公債證書額面貳千九百圓

同 前

金四千六百參拾九圓五拾六錢三厘

現 有 金

社員ノ所有ニ係ル月掛元資預リ分

各種公債證書額面參千參百參拾圓

二期社員十名分

日本郵船會社株式券面參千六百圓

同 十二名分

金貳萬九拾圓

同 五十八名分

明治廿二年中

社中死去

七 名

入 社 員

八 名

欠 員

六拾五名

右之通相違無之候也

明治廿三年一月

共濟五百名社 幹事

遺族保全會社

明治十三年

郵便報知新聞

第二一〇號

明治十三年二月十七日

いは新新聞

第五九號

明治十三年二月十八日

麴町區ニ住スル某其他數名カ發起人ニテ歐洲ノ人命保險會社ニ倣ヒ遺族保全會社トイフヲ設ケ  
ラレシカ積金ハ毎月貳十錢ヨリ貳十圓マデヲ目途トシ二十五ヶ月ヲ滿期トシテ滿期後ニ掛金主  
ノ死去スルトキハ埋葬料トシテ貳拾錢掛ヘハ拾圓、貳拾圓掛ノ者ヘハ五百圓ノ割合ニテ其遺族  
ヘ附與スルノ方法ナリトカ

設立ノ報

(74)

東北共愛社

明治十三年

朝野新聞

第二〇五六號

明治十三年七月二十四日

設立ノ報 (75)

○宮城縣下の有志者が協議して此程東北共愛社と稱し人命保險社を設立せし由

(76)

設立願

共濟千名會社

明治十三年

共濟千名會社設立願

麴町區土手三番町廿一番地 士族

磯部武者五郎

右邸内へ今般私共發起ニテ共濟千名會社設立仕度趣意ハ凡ソ戸主タル者ハ家門ノ永續ヲ冀ヒ子孫ノ繁昌ヲ願サル者無シトイヘ厄卒然病ニ罹リ淹逝シ家ニ餘財在ラサレハ家門ヲシテ衰替セシメ遺族ヲシテ饑寒ノ歎無キヲ免レス且本府下ハ人烟稠密ニシテ火災多ク破産ニ及フ者又尠トセス故ニ該會ヲ設立シ約則ヲ嚴重ニシテ之ヲ救濟セントス仰願クハ私共一片ノ婆心 御憐察ノ上千名ノ收纏金ヲ以テ買得候金祿公債證書ハ特別ヲ以テ保護ノ爲御應へ御預リ置被下候積ニテ千名會社設立ノ義速ニ 御允許被成下度別紙假約則書相副此段奉願候也

共濟千名會社發起人

加藤安彦

高 須 恒 久  
山 田 謙 益  
伊 丹 直 愛

右 四 人 代 兼

右

明治十三年九月二十日

磯 部 武 者 五 郎

右 同 人 父 隱 居

正 七 位 磯 部 最 信

麴 町 區 飯 田 町 五 丁 目 廿 一 番 地 士 族

鈴木重明父隱居

從 五 位 鈴 木 重 嶺

東京府知事 松 田 道 之 殿

前書願出ニ付奥印候也

明治十三年九月十八日

東京府麴町區長

矢 部 常 行 印

共濟千名會社創立緒言及假約則

共濟千名會社緒言

凡ソ戸主タル者ハ家門ノ永續ヲ冀ヒ子孫ノ繁榮ヲ望サル者無ク我カ本務生業ニ孜々黽勉スト雖モ如何セン卒然病ニ罹リテ淹逝シ家ニ餘財ノ在ニアラサレハ家門ヲシテ衰替セシメンコトヲ患ヒ遺族ヲシテ饑寒ニ迫ルノ歎無キヲ免レス且本府下ハ人烟稠密ニシテ火災多ク是カ爲ニ破産ニ及フ者亦尠トセス是該會ヲ設立シテ家門ヲ永續セシメ遺族ヲシテ饑寒ノ患ヲ免レシメ又罹災ニ困迫スル者ヲ併セテ之ヲ救濟セント欲スル所以ナリ敢テ他人ノ爲ノミナラス各自一身上ノ喫緊要着ニシテ同病相憐ムノ真情也又生産富饒ニシテ我カ遺族ニ顧慮スル所無ク忽然火災ニ逢フモ毫モ生業ニ關涉スルノ患無キ人ハ同胞兄弟ノ慈心ヲ以テ入社シ積善ノ餘慶ヲ子孫ニ貽サレン事ヲ冀望スル所ナリ仍テ假約則ヲ結定スル事左ノ如シ

共濟千名會社假約則

第 一 條

本社ハ假リニ麴町區土手三番町廿一番地ニ置社員千名トス

第二條

年齢六十歳以下十五歳以上ノ戸主本籍寄留士民ノ別ナク此申合假約則ヲ遵守スルニ於テハ入社スルヲ得ヘシ

但戸主引請ニテ其父母妻子等ヨリ入社ヲ請フ事アラハ三口迄ハ許可スヘシ

第三條

入社スル者ハ第一號甲乙雛形ノ證券ヲ與ヘ社員タルヲ證ス

第四條

入社ノ者ハ第二號雛形ノ通ノ誓約書ヲ出スヘシ

第五條

社員ハ凡ソ五十名ヲ以テ一組トシ副幹事一名ヲ投票公撰シ府下十五區六郡最寄ヲ以テ組合ノ事務ヲ擔當セシメ副幹事中ヨリ更ニ幹事五名ヲ撰擇シテ社中一切ノ事務ヲ總轄セシム

但副幹事ハ組合限幹事ハ副幹事一同ニテ投票公選スヘシ

第六條

社中或ハ社外ノ者ヲ以テ書記一名雇小使一名ヲ置キ幹事副幹事自カラ義務トシテ筆算ヲ取リ書

記ヲ令シ簿記等ノ事ヲ掌ラシム

第七條

創社積金トシテ各員ヨリ一人金貳圓五拾錢ヲ出シ右積金貳千五百圓ヲ以テ公債證券ヲ買入方今ノ證券金七十圓程此公債金三千五百七十圓余 年七朱ノ利子金貳百五拾圓程ノ内六拾七圓ヲ豫備トシ百八拾三圓ヲ以テ小使給料筆墨紙其他要用之調度炭茶等ノ社費ニ充ツヘシ

但遣拂豫算別帳ヲ見テ知ルヘシ

第八條

買入候公債證券ハ東京府廳ヘ其儘預ケ置保護ヲ依頼スヘシ

但證券記名ハ幹事筆頭以名面ニテ共濟千名社幹事某ト記載スヘシ

第九條

社員ハ右積金貳圓五十錢ノ外共濟金トシテ一人金貳拾五錢ヲ出シ幹事立會封印ノ上月番ヲ以テ抵當品差出預ケ置社員中物故スル者アルニ際シ金貳百圓類焼ハ金五拾圓届出ヨリ三日間ニ相渡シ盟約書ト引換ヘシ

但一日ノ内萬一、兩三人、一時ニ死失類焼等ニ届出ルトキハ人員ニ應シ内渡イタシ、取集次第殘金十日間ニ相渡スヘシ



第二類 人保險之部

二三六

本人ノ分一人不足ノ金員ハ本社豫備金ノ内ヲ以テ補フヘシ、且自火ハ有心故造ノ嫌アルヲ以テ救済セス

第十條

社員中死亡ノ報道ヲ得ルトキハ金貳拾錢類焼ハ金五錢組合副幹事ヨリ達次第差出スヘシ尤モ本社ノ請取證書ト引換フヘシ

但直ニ副幹事ヨリ受取人ヲ廻シ、右使賃錢五厘ツゞ當分ノ内差出スヘシ退テ社費見留付タル上ハ社費ニ立ツヘシ、尤モ報道ヲ得多上ハ本人不在ニテモ受取人廻リ候ハ直ニ相渡スヘシ

第十一條

死亡類焼ノ共濟金本人竝遺族ノ都合ニヨリ全額又ハ幾分カヲ本社ニ預ケ置クモ妨ケナシトス然ル上ハ相當ノ利子ヲ附シ入用ノ時ハ何時ニテモ還附スルモノトス

但預リ證書ハ其節ノ示談約則ノ通タルヘシ

第十二條

非常ノ災害ニ罹リ死亡類焼數十百人ノアル時ハ約則ノ金員ヲ共濟スルヲ能ハス依テ二十一人以上百人迄ハ金五十圓ヲ共濟シ右以上モ該金額ニ准シ減少共濟スルモノトス

但類焼モ右ニ准シ二十一人以上五十人迄ハ金貳拾五圓五十一人以上百人迄ハ金拾貳圓五十錢トス余ハ之ニ准スヘシ

第十三條

死亡ノ相續人年齢第二條ニ適シ更ニ積金共濟金ヲ出スニ堪タル者ハ引續キ入社スルモノトス

但其際ニ於テ幹事ノ鑑定ヲ以テ入社ヲ許サ、ル事アルヘシ

第十四條

不得已事故アリテ退社セントスル者ハ幹事ノ認可ヲ得テ代員ヲ入社セシムヘシ

第十五條

代員ハ本人ノ證券ト引換ヘ更ニ證券ヲ附シ誓約書ヲ社中ニ出サシムヘシ

第十六條

轉籍移住ノ者ハ副幹事ヘ申出副幹事ヨリ速ニ本社ニ報スヘシ

第十七條

他管内ヘ轉籍寄留ノ者ハ除社シテ積金共濟金貳圓七拾五錢ヲ返附スルモノトス

但類焼金受取タル後ナラハ年々死亡類焼ノ差出金ヲ差引殘金五ヶ年賦本社ニ宛借用證書ニ改ムヘシ右納金ハ共濟金ヘ備置ヘシ

第十八條

除社ノ者アル時ハ右跡ヘ速ニ新加ノ者ヲ撰シ滿員ニスヘシ

但入社ノ規則ハ總テ前條ノ如シ

第十九條

公私ノ用向ニヨリ外國若クハ内國他府縣へ出張スル事アラハ掛金ハ其家族又ハ保證人ヨリ納ムヘキモノトス故ニ出發前本人ヨリ其代理人ヲ定メ本社へ報スヘシ

第二十條

毎年一月中前一年ノ死亡類焼等ノ共濟金給料社費等明細表ヲ造リ各員ニ報スヘシ

第二十一條

毎年一度正副幹事始社員中意見アル者ハ一同寄合假約則ノ可否後來ノ見込等熟議審定該規則ヲ加除スル事アルヘシ

但集合月日ハ其時々協議ノ上定ムヘシ

第二十二條

正副幹事前年一月ヨリ翌年一月迄滿一ケ年ヲ一期トシ該一月中日ヲトシ集會改撰投票スヘシ

但投票多數ノ者ハ重年擔任スルトモ妨ケナシ

第二十三條

本社ニ於テ金圓十圓以上纏リタル時ハ前同斷封印ノ上幹事月番へ預ケ證書取置ヘシ毎日遺拂殘金ハ正副幹事詰合ノ者封印シテ本社ニ差置ヘシ

第二十四條

此會社ハ爲試創立ノ儀ニ付明治十三年九月ヨリ同十八年九月迄滿五ケ年ヲ一期トシ滿期ニ至リ一旦解社シ猶又協議ノ上創立スルモノトス

但積金並共濟金ハ悉皆計算ノ上本人へ返附スヘシ

第二十五條

千名滿員ノ時ニ至リ人員地名番號五十名組合組合中假副幹事ヲ定メ出板配賦スヘシ

但滿員ノ上來ル幾日ヨリ共濟法可行旨組々廻狀ヲ以通達スヘシ

第二十六條

本人掛金ヲ怠リ保證人又辨納セサル者アリテ三次ニ及ヘハ之ヲ除名ス

但積金掛金ハ返附セス若類燒金受タル後ナラハ返濟證文等ノ卷第十八條但書ノコトシ

第二十七條

年々病沒新加ノ者凡十人ト見積五ケ年ニシテ百拾貳圓五拾錢前同斷幹事月番へ預ケ置十八年九

月ニ至リ精算社員一同へ年數ニ應シ割戻スヘシ

發起人

- 麴町區土手三番町廿一番地 磯部 最信
- 同區同町廿六番地 加藤 安彦
- 同區紀尾井町三番地 高須 恒久
- 同區土手三番町廿一番地 磯部 武者五郎
- 牛込區二十騎町廿番地 山田 謙益
- 同區笹笥町十六番地 伊丹 直愛
- 麴町區飯田町五丁目廿一番地 鈴木 重嶺

形籬甲號一第

共濟千名社員ノ證

印紙

一、貴殿ノ社員タルヲ證シ此證券ヲ附シ物故ノトキハ遺族ヘ金貳百圓ヲ惠與センコトヲ盟約ス仍如件

年號月 共濟千名社員 社印

幹事 某同同印

某同同印

形籬乙號一第

共濟千名社員ノ證

印紙

一、貴殿ノ社員タルヲ證シ此證券ヲ附シ類焼ノトキ金五拾圓ヲ惠與センコトヲ盟約ス仍如件

年號月 共濟千名社員 社印

幹事 某同同印

某同同印

賛成者

小石川區原町八番地

平 山 省 齊

紙界券證 形號二第

本籍華士族平民  
 寄留番地  
 居住番地  
 某  
 何年何月  
 社則ヲ遵守シ共濟之掛金無遲滞相納可申  
 盟約仍如件  
 年號月  
 右  
 某 印  
 前書之通相連無之本人掛金帶ルトキハ拙  
 者ヨリ急度辨納可申也  
 保證人  
 族籍居住番地  
 某 印  
 共濟千名社中

死者アルトキ報道雜形 表面

何區何町何番地  
某 殿

共濟千名社幹事

社友某殿幾日 死去致サレ候ニ付及御通知  
 類燒致サレ候ニ付及御通知  
 候依而ハ約則ノ金員惠與可致候間後備掛  
 金二十錢 請取ノ者相廻シ候間請取證引替  
 御渡有之度候也  
 年 月

掛金受取證

社 印  
 一金二十錢  
 一金五錢  
 右者社友某殿死去致サレ候ニ付爲後備掛  
 金正ニ落手候也  
 年號月日  
 某 殿  
 共濟千名社幹事印

積金總高

積金利子遣拂概算

金貳千五百圓 但壹口金貳圓五拾錢宛千口  
 此公債證書三千五百七拾圓餘 但金百圓ノ證券方今金七拾圓程ノ見込ニ付全クノ概算ナリ  
 此利子金貳百五拾圓程  
 一金貳百五拾圓程 但年七朱  
 此遣拂豫算

金三拾圓程 初年廣告活版證券受取證板木等ノ費  
 金拾五圓程 用算筒硯箱机狀箱算盤其外要品買上ノ費死亡類燒ノ報道入費  
 此二口小計金四拾五圓程

是ハ次年ヨリ幹事副幹事合貳十五人へ廻狀使費其外補ヒトシテ暮ニ至リ平等ニ割合差出ヘキ積

金拾圓程 筆墨紙蠟燭ノ類  
 金拾圓程 薪炭土瓶茶碗ノ類  
 金七拾貳圓 書記壹人月給金六圓

金三拾六圓程 雇小使壹人日給十錢宛

金拾圓程 集會費

金六拾七圓程 豫備積立金

是ハ豫備トシテ積立置死亡人ノ掛金ヲ補助シ滿年ニ至リ出金主ヘ割戻スヘシ

右概算ニ付年々正副幹事集會投票之節諸帳簿立會精算ノ上明細表ヲ製シ積金主ヘ配賦スヘシ

東京府指令案 明治十三年九月二十五日

書面之趣ハ出願ニ及ハサル儀ト可相心得事

設立ニ對  
スル東京  
府ノ指令  
案

(78)

讀賣新聞 第一七一五號 明治十三年十月五日

共濟千名會社廣告

凡そ戸主たる者は家門の永續を冀ひ子孫の繁榮を望まざる者なしと雖も卒然病に罹りて淹逝し、家に餘財あらざれば家門を衰替せしめ遺族をして饑寒の歎無きを免れず、且本府下は人烟

社員募集  
廣告

(79)

稠密にして火災多く破産に及ぶ者又尠しとせず、故に該會を設立して之を救濟せんとなす、其概略、社員千名とし一名元金二圓五拾錢合金二千五百圓を以て金祿公債證券を買得し東京府廳へ預け置、右利金を以て諸費に充て、滿五ヶ年を一期とし期限に至り元金は悉皆割戻し、右元金の外に共濟金として一人金二十五錢を出金し社員死没の時一人金二百圓、類焼は一人金五拾圓を三日間に相渡す、約定のことは別冊約則書の如し乞ふ同病相憐む人は更也富饒にして我が遺族に顧慮無く忽然火災に遇ふも毫も生計に關涉無き人も同胞の慈心を以て積善の餘慶を子孫に貽されんことを。

但し開社より三十日間を入社の期限とすれども若し期限内滿員の時は及御斷候也

十月十日開社

麴町區土手三番町廿一番地

共濟千名社

發起人物代

正七位 磯部最信

從五位 鈴木重嶺

共濟千名社再廣告

該社、社入は本月十日後より三十日間の處昨今來車或は郵信にて申込有之候得共、約則書印刷中に付、開社後申込相成度且入社は本府下十五區六郡に限候間爲念此段再及廣告候也

共 濟 千 名 社

右ノ再告

明治十四年

讀 賣 新 聞 第一八五一號 明治十四年三月二十六日

共濟千名社欠員募集廣告

該社滿員に付、去廿日麴町神道事務分局に於て入社金保證書受取社員の證券相渡す際に至り俄に除名の者有之に付右欠員至急募集候條有志の諸彥金員保證書持參速に御來車を乞ふ但入社金二圓五十錢、共濟豫備金二十五錢、一時不都合の向は二三ヶ月に割合内金に受取置、皆濟の節證券相渡すべし、尤現員を以て共濟法三月廿五日より施行候也

麴町區土手三番町廿一番地

欠員ニ付  
募集廣告

基金利用  
法ノ報道  
ヲ怠リタ  
ルコト

郵便報知新聞 第二四五五號 明治十四年四月十二日

共 濟 千 名 社

○近來共救ノ旨意ニ種々ノ名ヲ附シテ設立スル社ノ中ニハ隨分信用ヲ置キ兼ヌル事業モアレト彼ノ共濟千名社ノ如キハ其規則モ確正ナル上ニ社長ノ鈴木重嶺氏ハ幕府ノ勘定方ノ吟味役ヲ勤メ維新後モ相川縣ノ縣令ニ任セラレシ經濟上ニ拔ケ目ナキ人ナレハ決シテ無算ノ事ヲ爲ス筈モナキカ醸集金貳千圓ノ内ニテ去月中額面五百圓ノ公債證書三枚ヲ千五十圓ニテ購入セシトハ其都度社員へ報道シタルカ其後殘金九百五十圓ハ如何ナル仕法ニ定メシカ更ニ報道ナケレハ之ヲ知ルニ由ナク假令此二ヶ月間ハ公債證書ノ賣買ヲ禁セラレシ折リナレハトテ斯ク經濟ニ賢キ人カ千圓足ラスノ金額ヲ徒ツラニ遊ハシテオク筈モナク左リトテ七名ノ役員カ此時ヲ時トシ無利息ノ金ヲ得タル積リニテ己カ儘ニ使用スル筈ハ決シテ有マシケレト只報道ヲ怠リシ爲メ或ハ社員中ニ此等ノ疑惑ヲ起サシムトノ投書アリタリ

(83)

社員ノ鳴謝廣告

共濟千名社員鳴謝廣告

神田區仲町二丁目五番地共濟千名社員第四百五十二號樋口常治郎事四月一日類焼に付、共濟金御惠與被下候處五月五日急病にて死去に付尙又早速約則之通共濟金御惠與相成不幸の中にて遺族一同相助り感銘之至に堪へず、茲に社友御一同へ厚く鳴謝候也

右樋口常治郎妻 樋口ふく

(84)

社員死亡廣告

共濟千名社員死亡廣告

日本橋區箱崎町二丁目六番地石川四郎兵衛妻ふじ(五十五年一月)事、共濟千名社設置の際入社之處客月廿三日より發病本月六日死去致候に付條約の通共濟金御惠與相成遺族一同感銘之至に堪へず、依て茲に社員諸君へ厚く鳴謝候也

附、云該社々則の整備は勿論諸事懇篤なる實に公益と云はざるを得ん、今幸に欠員あれば有志の諸君速に入社あらんことを勧誘す (以上)

讀賣新聞 第一八九六號 明治十四年五月十九日

躋壽社

明治十三年

郵便報知新聞 第二三二七號 明治十三年十一月二日

彼の五百名社の規則に倣ひ今度有志者か躋壽社と稱し甲乙二組と爲し、甲は二圓掛け千圓取り、乙は一圓掛け五百圓取りの法にて戸主に限らず何人にも入社をする事を許し、又長病に惱む時は若干金を渡し、又六十年七十年に及ぶ者へも若干金を渡す等の便法を設けたりと云ふ

(86)

右ニ關スル詳報

設立、ノ組織ニ關スル報

郵便報知新聞 第二三四五號 明治十三年十一月二十五日

性命保險は人生緊要の事にして西洋各國には其會社數多ありと雖も我國に於ては未だ人命保險會社と稱する者あらず、近頃當府下に共濟五百名社を設置せしは實に此種の嚆矢なり、而して此社の申合書を見るに彼の會社主義のものとは其趣を異にし恰も五百名は一家眷屬の患難相救ふか如く實に善良の組織と謂ふへし、已に此社を設けしより物故する者貳名其遺族は

第二編 會社資料

第二類 人保險之部

二五〇

各金千圓を領收するに至れり、然るに社則の戸主を限ると、入社の際持寄金六圓、前備金貳圓、證印税一圓合せて金九圓を要するか爲めに竟に其望みを達し得ざるもの許多あり、是に於て我輩共濟五百名社の組織により更に其區域を擴め一社を設立せんとす、依之本月日より十二月二十五日を限り社員千名を募集するに付入社を望むものは下名の銀行又は發起人の内へ早々申込ありたし、最も期限内と雖も其數全備すれば他は一切謝絶すへし

社則第一號

社則第一號

本社は日本橋區小船町二丁目第六十國立銀行内に

社員五百名置

此社員は年令五十年以内、十五年以上の者にして本府の本籍寄留を問はず、戸主と戸主にあらざるとを論せず入社することを得

入社の特寄金として金四圓、前備掛金貳圓、印紙代金壹圓合せて金七圓を出すを要す

社員死去する時は金千圓を渡すへし

社則第二號

社則第二號

社員五百名

社員年令第壹號と同じ、入社の時合金三圓五十錢を出すを要す  
社員物故する時は金五百圓を渡すへし

躋壽社發起人

- |       |      |
|-------|------|
| 堀田正養  | 鹽谷良翰 |
| 荒木功   | 館興敬  |
| 伊藤徹   | 加藤治幹 |
| 鈴木田正雄 | 久住秋策 |
| 村上光雄  | 關岡孝治 |
| 大關增勤  | 平川知道 |

以上

(87)

讀賣新聞

第一七五七號

明治十三年十一月二十六日

躋壽社設立廣告

今般我輩共濟五百名社の組織により更に其區域を擴めて一社を設立せんとす、乃ち本社を日本

設立廣告

第二編 會社資料

二五一



第二類 人保險之部

二五二

橋區小舟町二丁目第六拾國立銀行中に置き、本月日より十二月廿五日を限社員千名を募集す、尤も期限内と云ども満員に及べば他は一切謝絶すれば入社望みの方は銀行又は發起人の中へ早々申込ありたし、其社則の要を摘んで左に掲ぐ

【備考】以下社則第一號は郵便報知新聞(第二三四五號、十三年十一月二十五日) 雜報中に掲載せられしものと同様に付き之を省略す

讀 賣 新 聞 第一七六五號 明治十三年十二月五日

本社規則第二條中本府の本籍寄留を問はずと有之は、本人當府下に現住の人に限り目今他府縣へ在勤或は旅行中の方は御斷申候爲念此段廣告す

日本橋區小舟町 第六拾國立銀行内

躰 壽 社

朝 野 新 聞 第二一六九號 明治十三年十二月八日

△小舟町二丁目六十銀行に開きし躰壽社は(死後金圓を恵む共濟五百名社に倣ひしもの)追々加

社員ハ府下現住ヲ條件トスルトノ廣告 (88)

雜報 (89)

入の人員有りて來年一月より規則の通り施行すると云ふ事故加入を望む人々は満員にならぬ内早く申込まる可し

讀 賣 新 聞 第一七八五號 明治十三年十二月二十九日

躰壽社廣告

本社加入第一號、二號とも満員に付此段廣告す

十二月廿六日

第六十國立銀行

社員満員ノ廣告 (90)

明治十五年

讀 賣 新 聞 第二一九八號 明治十五年五月二十一日  
朝 野 新 聞 第二五九五號 明治十五年六月二日

躰壽社々則改正廣告

- 一、死亡遺族惠與金 一號金千圓、二號金五百圓
- 一、一月一回限り出金 一號金二圓參錢、二號金一圓參錢

第二編 會社資料 二五三

改正規則ノ要領

第二類 人保險之部

二五四

一、死者無き月抽籤  
 一、期 限  
 一、滿期迄中籤無き者分配  
 一、既に中籤したる者滿期  
 一、又は死亡の節惠與金  
 一、年齡七十に至れば内渡金

右は本社改正規則の要領にして更に社員百五十名を増加す、加入望の方は來る六月十日限り申込ありたし

但府下居住、年齡五十未滿身體壯健の者に限る、尤加入の際體格の檢査を遂ぐべし

日本橋區小舟町二丁目一番地  
 第六十國立銀行内 躰 壽 社

朝 野 新 聞 第二六三七號 明治十五年七月二十七日

第二號躰壽社改正百五十名増員の筈兼て及御報道置候處夥多申込有之に付體格檢査濟之上速に實行可致候間當七月廿六日より三十日迄に御來社御照會之上直に醫師方へ御出張有之度御申込

の諸君へ廣告す

日本橋區小舟町二丁目一番地  
 第六十國立銀行内 躰 壽 社

明治十六年

朝 野 新 聞 第二七九三號 明治十六年二月十三日  
 郵便報知新聞 第二九七八號 明治十六年二月十三日

第二號躰壽社抽籤廣告

本社一月死亡無之ニ付規則ニ依リ本日抽籤施行ノ處第九十四號本郷元町二丁目六十六番地田中重雄殿當籤相成候此段各社員ニ廣告ス  
 但除名跡欠員有之ニ付入社御申込ノ方ハ之ヲ諾ス

小舟町二丁目一番地  
 第六十國立銀行内 第二號躰壽社

二月十一日

(94)

郵便報知新聞 第三〇一〇號 明治十六年三月二十三日

第二躰壽社改正實施

明治十五年ヨリ十六年二月迄實施廣告

入金ノ部

金千六百六十二圓 持寄金後備掛金

金二千七百三十圓 月掛金

金八十一圓九十錢 同報道費

金百七十八圓 當籤者寄付金

金五十圓 持寄金利子

計金四千七百壹圓九十錢

仕拂ノ部

金三百九十六圓 死者遺族渡金

金七百九十二圓 當籤者渡金

第二號ノ  
十五年度ノ  
計算報告

金二百七十四圓十五錢七厘

計金千四百六十二圓十五錢七厘

現金高三千二百卅九圓七十四錢三厘

雜費改正入費共

小舟町二丁目一番地

第二號 躰壽社

朝野新聞 第二九八七號

明治十六年九月三十日

本社第一號躰壽社改正實施本月廿三日抽籤施行の處第二二三號社員當籤相成候間各社員へ廣告す

日本橋區小舟町二丁目一番地

第一號 躰壽社

十六年九月

第一號ノ  
抽籤廣告 (95)

### 共 惠 社

明治十三年

(96)

東京横濱毎日新聞

第三〇〇一號

明治十三年十二月十四日

設立并申  
込募集廣  
告

本社創立の要旨は共惠を主とし社員を五百名と定め豫め各社員より金壹圓宛を本社へ取集め置、社員中死亡する者あれば右の金圓則總計金五百圓を其遺族に惠賜し以て將來生計を立つるの一助に供せしむる目的にして今般同志の者協議の上官の允准を得來る明治十四年一月一日より開業せんとす、乞ふ東京又は横濱居住にして有志の諸君は横濱弁天通四丁目製紙分社中本社の假局へ速に御申込あらんことを

共惠社幹事

但規則書御一覽なされ度御方は御報知次第御遞送可致候

### 共 濟 救 樂 社

明治十四年

(97)

讀 賣 新 聞

第一七八八號

明治十四年一月七日

#### 共濟救樂社設立廣告

設立廣告

今般我輩同志者と謀り曩に共濟五百名社と千名社の設立も雖有之本府下巨額の人民中には不慮の災難に逢も尠しとせず、之が非常に係る難を救助せん爲共濟の事務を尙爰に擴めて該會社を設立し各位に其望を達せしめんとす、乃規則の要を摘んで左に掲ぐ

規則要綱

社員千名を限る

入社の時金三圓三拾錢を要す

共濟金として月々金三拾錢を積置

社員中死去する時金二百圓を渡す

同重病長病の時は請求に應じ内金五拾圓を渡す

二期を経て六十年以上の者へは半額金百圓を渡す

第二編 會社資料

類焼にて破産したる時は金百圓を渡す

但入社は一月十一日より二月廿日迄期限内満員に及べば御斷申候

赤坂區赤坂氷川町三拾九番地

救樂社

### 郷愛社

明治十四年

東京繪入新聞 第一六八五號 明治十四年一月二十七日

○共濟五百名社の創立せしより、是にならひて死者の遺族を救恤する社も追々出來たが、宮城縣下牡鹿郡石の卷の人戸塚貞輔氏外數名乃發起にて郷愛社といふをたて、死者一人ごとに一戸一錢宛を出し戸數六千戸にて金六十圓を醸集し、五十圓を遺族に贈り、拾圓を社に積立る規則なるが、既に創立より三人の死亡者ありて各規則の如く五十圓を贈られしかば、遺族の悦びはいふも更なり、最も簡易の良法なりとて、牡鹿一郡は概略入社したるよしに聞り

### 共恤千人社

明治十四年

讀賣新聞 第一八二一號 明治十四年二月十七日

共恤千人社

今般躋壽社等の法に依り死者の遺族に恤み加ふるに罹災を救ふの法を設け一社を設立す

其方法兩部三號に分ち各號一千人とし、甲號は最初一回持寄金四圓を積み第百十九銀行に預け利子を以て社費を辨じ其後は一名死去すれば金五拾錢を集め金五百圓とし之を救恤し、乙號も同じく金三圓を積み三十錢を集め金三百圓とし、丙號も金二圓を積み金十五錢を集め百五十圓とす、火災部も之と大同小異なり、入社を欲するの諸彦は京橋區出雲町同銀行まで御通報あるべし、規則書及び發起人名共に高覽に供すべし、但人命部入社は十五年以上五十五年以下に限る、火災部は自宅住家に限る

明治十四年二月

共恤千人社 發起人

(100)

朝野新聞 第二三三六號 明治十四年三月五日  
讀賣新聞 第一八三四號 明治十四年三月五日

他府縣人  
募集廣告

共恤千人社廣告

當社（人命部）加入は他の府縣にても本人出京し又は寫眞を送り保證人當府下にも有れば入社せしむべし來る十五日までに御通知ある可し

東京新橋出雲町 第一百十九國立銀行内

三月二日

共恤千人社

【備考】讀賣新聞掲載のものは多少字句の相違あり

募集期日  
延期廣告

(101)

東京日々新聞 第二八一三號 明治十四年四月二十八日

當社人命火災兩部加入人員未タ滿員ニ不到依テ尙來ル五月十五日迄延期募集ス

新橋出雲町 第一百十九銀行内

共恤千人社

順天共救社

明治十四年

創立願 (102)

順天共救社創立御願

今般積立共濟ノ方法ヲ設ケ豫備トシテ金祿公債證書額面金壹萬圓ヲ 政府へ御預リ奉願淺草區  
森田町拾八番地ニ於テ別紙ノ社則ヲ施行シ開業仕度候條何卒蒙御免許度別紙相添此段奉悃願候  
也

右願人

發起人總代

日本橋區元柳町拾七番地平民

石垣長右衛門

發起人總代

日本橋區矢ノ倉町拾貳番地平民

栗原幸次

明治十四年

辛巳二月十七日

第二編 會社資料

淺草區森田町拾八番地平民

服部清助

東京府知事 松田道之殿

前書出願ニ付奥印候也

淺草區長 池田徳潤

順天共救會社創立緒言及規則

順天共救會社創立緒言

千里モ一步ヨリ起リ高山モ微塵ヨリ始ルト信ニ然リ而シテ我帝國政府ニ於テハ特ニ貯金法ヲ施行セラレ今ヤ各銀行中其他ニ於テモ貯藏ノ法ヲ設ルアリ共濟法ヲ立ルアリ西洋各國ニモ亦相對扶助ノ法アリ其法タルヤ有志ノ輩互ニ結社會同シ活計剩餘節儉ノ餘金ヲ以テ日々貯ヘ月ニ年ニ積而不虞ノ豫備トス是社會上片時モ缺可ラサルノ良法ニシテ生等今回有志ノ諸彦ト謀リ順天共救會社ヲ創立スル所以ナリ其方法タル社員各一日金五厘(即壹ヶ月金拾五錢)ヲ積テ純然貯金ノ法ニ遵ヒ協同共救ノ法ヲ設ケテ相互ニ非常ノ救助ヲ爲シ毎二期定利ノ外ニ純益ヲ配當スルニ

抽籤法ヲ施行ス

而シテ相與ニ此社ヲシテ永續盛隆ナラシメンコトヲ企望ス今其方法條款ヲ定ムルコト左ノ如シ

順天共救會社規則

第壹條 本社ハ淺草區森田町拾八番地ニ設置シ社員壹万人ト相定メル事

第貳條 本社ハ豫備トシテ金祿公債證書額面金壹万圓ヲ置キ各社員ノ積立金ヲ確實公明ニ保護シ社員ヲシテ相互ニ共救セシムルヲ以テ專務ト爲スヘキ事

第三條 本社役員ハ社長一名幹事一名簿記二名庶務二名ヲ置キ社務ヲ管理スル事

第四條 本社ハ滿五年半ヲ以テ一期トシ各社員ノ積立金ヲ精算シテ子母ヲ還附ス最モ年息六朱ノ比較ヲ以テ純益ノ外(純益金分配ノ法ハ第十五條別紙ニ詳ナリ)ニ相渡ス可キ事

第五條 本社員ハ壹万人(壹人ニシテ數口加入スルモ碍ゲナシ)ヲ以テ限リトシ壹口金拾圓ト相定メ積立可キ事

但滿壹万ノ外決シテ入社ヲ許サハル事

第六條 社員積立金出額ノ方法ハ入社ノ際壹圓ヲ基礎金トシテ差入レ其明月ヨリ毎廿五日ヲ以テ金拾五錢ツツ滿五年半ニ皆納スヘキ事

第七條 本社員タラント欲スル者ハ入社ノ際必ラス本社印鑑簿ニ押印スヘシ若シ該印章水火盜難遺失等ノ事故アツテ改印スル時ハ即日本社ヘ改印鑑差出ヘキ事

第八條 寄留止宿ノ身ニシテ本社員タラント欲スル者ハ本地本籍ノ者ヲ以テ保證ニ相立ヘキ事  
第九條 本社ニ於テハ入社人ヘ番號記號ノ證券ヲ渡シ置キ月掛金受取ノ都度入社證券同番記號ノ小切符ヲ渡シ金壹圓ニ充ル時ハ入社證券ヘ裏書證印ヲナシ以テ積立金額ヲ證明スヘキ事

第十條 社員死亡ノ節ハ其旨本社ヘ通報スヘシ然ル時ハ本社ニ於テ即日金祿公債證書(七分利付)額面金五拾圓ヲ(數口ヲ有スルモノハ一口ニ付金五十圓ノ比較ヲ以テス)遺族ヘ相渡シ而後一口ニ付金五厘宛ヲ救助金トシテ取集メル事

但シ公債ト交換ノ過金ハ本社ヘ積立置キ滿五年半ノ後救助金ヲ領受セサル社員ヘ割戻スヘシ

第十壹條 社員水火ノ災及ヒ三ヶ月以上ノ長病ニ罹ル時ハ第十條ノ振合ニ做ヒ金三厘ツ、取集メ額面金貳拾五圓ヲ相渡スヘキ事

但書同斷

第十二條 社員ノ中ヘ救助金差出ス節ハ社ヨリ取集メ人巡回(死亡災憂トモ其證據ヲ持參ス)

致サセルニ付社員一同苦情ナク惠心ヲ以テ發金(數口ヲ有スル者ハ其口數ニ從ツテ出額スヘシ)ス可キ事

第十三條 第十條第十壹條ノ憂ニ罹ル者救助金ヲ領取スルニ(死亡ハ遺族ニ) (罹災者ハ保) 確實ナル事ヲ以テ報スヘシ然ラサレハ本社ニ於テ救助金附與ノ手續ヲ施行セサルヘキ事

第十四條 本社精算ハ毎年二期金錢出納表ヲ制シ各社員ニ配布スルカ新聞紙ヲ以テ報告スヘシ  
第十五條 社員タル者ハ定利ノ外ニ毎年二期純益金ヲ別紙ノ抽籤法ニ依テ領取スルコトヲ得ヘキ事

### 抽籤法

基本金積立金ノ利子ヲ算スルニ五ヶ年平均毎半年ニ概テ金貳千圓以上ノ純益ヲ得之ヲ金祿公債證書(七分利付)額面金貳千五百圓ト交換シ的籤ヲ以テ社員五十名ヘ分配ス(即一口ニ付金五十圓)其法左ノ如シ

但シ公債證書ノ時價額面壹百圓ニ付六十五圓ヨリ低落シ七十圓ヨリ上昇スル時ハ規定ヲ改正スルコトアルヘシ

第壹則 本社ハ滿五年半ヲ以大精算ヲナスモノ故之ヲ十期ニ分チ(即年二期)純益金ヲ分配ス



依テ期限内十度ノ抽籤ヲ施行スルモノトス

第貳則 全社員ヲ壹百ニ區別シ一區中世話掛壹名ヲ撰舉セシメ之ヲ該區ノ總代人トシ抽籤ノ際立會人トシテ出頭セシメル事

第三則 入社證券番號ハ數字ヲ以テシ記號ハいろは四十七字ノ外共救會ノ三字ヲ加ヘテ五十記號トス故ニ番號ハ一記號中第一號ニ始リ第貳百號ニ終ル依テ抽籤ノ際五十記號ニ區別シ(即番號第壹ヨリ第二百ニ至ル)一記號中抽籤第壹號ヲ以テ的籤ト爲ス事

第四則 抽籤ノ時日ハ新聞紙ヲ以テ報告シ及ヒ的籤ノ番記號モ同シク報告スルモノトス

第五則 當籤ノ社員ハ其後期ヨリ抽籤法ニ關係ナキモノトス  
但シ當籤後ト雖トモ社則第十條第十壹條ノ憂ニ罹ル社員ヘハ救助金ヲ相渡スヘシ  
第六則 當籤者ニ非ルモ救助金ヲ領受シタル社員ハ滿壹ケ年間(即二期)此抽籤法ニ關係ナキモノトス

入社證券 第壹號雛形

第號 記號

印 紙

順 天 共 救 社 之 證

(表)  
今茲ニ官許ヲ得テ創立セル順天共救社ノ規則ニ遵ヒ入社ノ義ヲ希望アルニ付正ニ承諾シ基礎金壹圓ヲ受取此證券ヲ付シ物故或ハ罹災疾病之時本社則ノ通救助金相渡スヲ確約ス以上ハ明月ヨリ月々金拾五錢ツ、滿拾圓迄出金積立コレアルベクモノナリ依テ社員タルヲ證明スルノ如件

明 治 年 月 日

姓 名 殿

順 天 共 救 會 社

裏 面 略 ス

第三號雛形

巡回人持參ノ切符 第五號雛形

第號 記號

金拾五錢也

右何月分積立金正ニ受取置候也

明治 年 月 日

順天共救會社

第號 記號

社員某殿(死亡類疾病)ニ付社則ノ通り金何厘

ヲ此者へ御授與有之度即受取切符差出

ス一如件

明治 年 月 日

順天共救會社

東京府指令按 明治十四年三月五日

東京府ノ指令案 (104)

書面願之趣認許難相成候事

順天社

明治十四年

郵便報知新聞 第二四七八號 明治十四年五月九日

順天社廣告

募集廣告 (105)

本社ハ共濟法中尤モ計算ヲ簡易確實ナラシメ何人ニテモ容易ク入社スルヲ得ルヲ主旨トス其方法同盟者ハ六千人ヲ限リ入社金トシテ五十錢ヲ預リ五ケ年ヲ滿期トシ利付コレヲ返却ス長病ハ十二圓火災ハ三十圓死亡六十圓ヲ互ニ集金シテ贈與スルモノトス且本社ハ常ニ醫員ヲ置クヲ以テ同盟者及ヒ其家族病氣ノ節無謝儀ニテ診察シ藥價ハ半額ヲ以テ服用スルヲ得ヘシ尙詳細ハ郵報ニ從ヒ規則書ヲ呈スヘシ熟視ノ上同盟アラシコトヲ請フ

淺草區新福井町二番地

順天社

第二類 人保險之部

郵便報知新聞

第二五三八號

明治十四年七月十九日

二七二

順天社實施廣告

弊社共濟法御同盟者日々増加スト雖凡日猶淺キヲ以テ未タ滿員ニ至ラス然レトモ同盟多數ノ希望ニ依テ本月二十日ヨリ現員ヲ以テ實施セントス請フ有志ノ諸君至急加入アラシコトヲ尤モ來社ノ暇ナキ仁ハ郵報アラハ加入金預リ證持參社員ヲ差出スヘシ

附言 本社都合ニ依リ横濱港ヲ加ヘ同地吉田町二丁目四十四番地岡田雲井ニ取次依頼候也

淺草區新福井町二番地

順天社

取次所

芝區南佐久間町壹丁目三番地

辻 甚四郎

郵便報知新聞

第二五八九號

明治十四年九月十七日

順天社同盟諸君ニ厚謝ス

私母佐藤千松死去候處同盟現員ノ諸君ヨリ即日共濟金御惠投被下忝ク此段新聞社ヲ以テ奉深謝候引續私加入仕候

本所長崎町八番地

佐藤 九か

郵便報知新聞

第二六〇一號

明治十四年十月三日

順天社廣告

弊社共濟法六千口限リ男女老少ヲ問ハス加入ノ節一口金五拾錢 死亡六拾圓 火災三十圓 長病十二圓渡シ 本社常ニ醫員ヲ置同盟者竝ニ家族ニ病者アレハ無謝義診察致シ藥價ハ半格ナリ 右方法ヲ以テ七月廿日ヨリ實施候得共滿員ニ至ル迄毎月曜日ヲ除ノ外御加入引請申候間有志ノ諸君至急御申込アラシコトヲ尤モ御同盟證券御渡シ後七日間ヲ經テ共濟ニ組合候也

淺草區福井町二番地

順天社

### 共濟壹錢社

明治十四年

創立願 (109)

共濟壹錢社創立御願

今般有志申合假ニ神田區佐久間町貳丁目拾番地ニ於テ別紙ノ社則ヲ施行シ開業仕度候間何卒蒙御允許度別紙社則書相添此段奉悃願候也

發起人總代

日本橋區元柳町拾七番地

願人 石垣長右衛門

同 區矢ノ倉十二番地

同 栗原幸次

明治十四年二月廿三日

東京府知事 松田道之殿

前書出願ニ付奥印候也

神田區長

澤

簡

徳

共濟壹錢社創立緒言及規則

緒言

今ヤ共濟共恤ノ法ヲ設ケ一社ヲナシテ豫メ不虞ニ備ヘ相互ニ共救セシムル等方行ハルハ最モ好ス可キ良法ニシテ眞ニ開明進歩ノ餘澤ヲ被ムルモノト云ヘシ然リ而テ其方法タル或ハ入社金ノ多キ或ハ救恤出金ノ多キニヨリ細民ニ至ツテハ其志シ有モ亦果スヲ得ス嗚呼何ソヤ此良法ヲシテ普ク及ハサル何ソ有志者ヲシテ遺憾ナカラシメザル是レ生等今回有志ノ諸彦ト謀リ茲ニ共濟壹錢社ヲ創立シ以テ廣ク社員ヲ募リ共濟共恤ノ方ニ於テ有志輩ヲシテ遺憾ナカラシムル所ニ至ラシメントス依テ今其條款ヲ定ムル事左ノ如シ

共濟壹錢社規則

第壹條

本社ハ假ニ神田區佐久間町二丁目拾番地ニ設置シ社員壹万(壹人ニシテ數口一戸中數名加入スルトモ碍ゲナシ)人ト相定メ年齢六十歳以下ハ老幼婦童ヲ論セス入社ヲ許ス最モ戶主ヲ保證ニ相立ヘキ

但シ滿員ノ上ハ入社ヲ許サズ

第二編 會社資料

第貳條 本社ハ滿十年ヲ以テ一期トシ社員相互ニ共恤セシムルヲ以テ專務ト爲ス事

第三條 本社ニ於テハ金五千圓ヲ不虞ノ豫備トシ金五千圓ヲ以テ公債證書ヲ買入レ之ヲ府廳ヘ奉預ケ該利子及ヒ一ヶ月壹錢ツヅノ集金ヲ以テ滿十ヶ年間ノ社費ニ充テ剩餘アレハ一期内救助金ヲ領受セサル社員ヘ基礎金ト共ニ返附スヘシ

第四條 社員タラント欲スル者金員出額ノ方法ハ入社ノ際金壹圓ヲ差入レ翌月ヨリ毎二十五日ヲ以テ金壹錢宛滿五ヶ年(即チ金六十錢)發金スヘキ事

但シ本社ヨリ取集メ巡回人差出シ候事

第五條 本社ニ於テハ入社員ヘ第壹號雛形ノ證券ヲ付シ及ヒ月掛金受取ノ都度第貳號雛形小切符ヲ渡スヘシ

但シ寄留止宿ノ仁本社員タラント欲セハ其戸主ヲ以テ保證ニ相立ベキ事

第六條 社員死亡ノ節ハ其旨本社ヘ通報スヘシ然ル時ハ即日本社ヨリ金七拾五圓(數口ヲ有スル者ハ一口金七拾五圓ノ比較ヲ以テ)ヲ遺族ヘ相渡シ第三號雛形ノ證券ヲ取り而后是ヲ證トシ一口ニ付金壹錢ツヅ(數口ヲ有スルモノハ一口金壹錢ノ比較ヲ以テ)救助金トシテ取集メ本社ヨリ第四號雛形ノ受取書ヲ差出スヘシ

但シ過金ハ本社基礎金ノ内ヘ組入レ積置キ期限ニ至リ救助金ヲ領取セサル社員ヘ基礎金ト共ニ割戻スヘシ

第七條 社員火災ニ罹ル時ハ第六條ノ振合ニ倣ヒ金壹錢ツヅ取集メ罹災者ヘ金五拾圓ヲ相渡スヘシ

但書前同斷

第八條 社員三ヶ月以上ノ長病ニ罹ル時ハ第六條ノ振合ニ倣ヒ金壹錢宛取集メ金貳拾五圓ヲ該患者ヘ相渡スヘシ

但シ書前同斷

第九條 社員救助金ヲ領受スルニハ妻妾長次男女其他皆戸主ヲ保證ニ相立(死亡、罹災、疾病)公明確實ナル事ヲ以テ報スヘシ然ラサレハ本社ニ於テ救助金附與ノ手續ヲ施行セサルヘシ  
但シ偽リヲ以テ渡シ金ヲ請求シタルヲ發覺スルニ於テハ速ニ脱社セシメ基礎金ヲ返却セサルヘシ

第十條 社員ヘ一期内救助金ヲ相渡ヌ制限左ノ如シ

第一節 死 亡 金七拾五圓

但シ故意ニ出テ自殺スル者ハ渡シ金ヲ爲ササルヘシ

第二節 羅 災 金五拾圓

但シ自火及ヒ放火スル者ヘハ渡シ金ヲ爲ササルヘシ

第三節 疾 病 金貳拾五圓

但シ検査ノ上醫師ノ診断書ヲ要スル事

第十壹條 社友ヘ救助金ヲ差出ス節ハ本社ヨリ其證ヲ持參セシメ取集人巡回致サセルニ付各員

トモ惠心ヲ以テ快ク發金スベキ事

第十二條 社中罹災者一時五十名以上ニシテ右救助金差出シ方目下困難ノ輩アル時ハ本社ニ於

テ豫備金ノ内ヨリ一時繰替置滿二ヶ月内ニ該金員ヲ本社ニ納メシムヘシ

但シ不納ノ節ハ第十三條ニ照準シ處分スル

第十三條 社員ニ於テハ壹ヶ月壹錢ノ掛金ヲ怠ル可ラス、若二ヶ月以上不納スル時ハ斷ナク除

名シ基礎金ノ内一期中ニ差出シタル救助金ヲ引去リ剩餘アレハ期限後壹ヶ月内ニ還附スヘシ

第十四條 本社ハ社長一名、幹事一名、簿記二名、庶務一名、巡回人四名ヲ置キ社務ヲ管理スル事

第十五條 本社精算ハ毎年二期新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

右拾五ヶ條ニ議定候條臨機更正ヲ加ル節ハ同濟ノ上實施致ス可候也

二月廿三日

雛 形

第 壹 號

第 號 記 號

印 割 共 濟 壹 錢 社 員 之 證

(表) 今茲ニ有志會同シ創立セル本社ノ規則ニ遵ヒ入社ノ義ヲ希望アルニ付正ニ承  
諾シ基礎金壹圓ヲ受取リ此證券ヲ付シ物故罹災疾病ノ時社則ノ通り救助金相  
渡ス事ヲ確約ス以上ハ毎月金壹錢宛滿五ヶ年間出金コレ有可モノナリ依之社  
員タルヲ證明スルコト如件

明 治 年 月 日

姓 名 殿

共 濟 壹 錢 社 印

第壹號

記

- 一、救助金ヲ領受シタル者ハ更ニ基礎金ヲ差入レ證券ヲ請取ルヘキ事
- 一、轉居スル時ハ其區町村番地ヲ本社ヘ届出ヘキ事
- 一、斷リナク旅行シニヶ月以上月掛金ヲ不納スル時ハ社則第十三條ニ照準シ處分スヘキ事
- 一、此證券水火盜難遺失ノ節ハ速ニ本社ヘ届出ヘシ取調ノ上書換證券ヲ相渡スヘキ事
- 一、此證券ヲ受取リタル者ハ番號記號ヲ篤ト扣ヘ置ヘキ事

幹事姓名 ㊟

(裏)

第貳號 小切符

番號 記號

割印

金壹錢也

共濟壹錢社印

右何月分正ニ領收候也

明治年月日

姓名 殿

第三號 受取書

印紙

救助金受取之證

金若干圓也

但入社證券番號記號社員  
某

右者某<sup>死亡</sup>ニ付同盟ノ社中ヨリ救助トシテ前書ノ金額  
被贈遺候段<sup>疾病</sup>忝ク親類立會正ニ領受致候也

明治 年 月 日

本人

姓 名

印

區

地

親族

姓 名

印

共濟壹錢社長宛

第四號

巡回人受取檢印  
取集メ切符

番號 記號

割印  
金壹錢也

右ハ社員某殿<sup>死亡</sup>ニ付本社則ノ通り御授與有之度即  
受取切符差出ス事如件

明治 年 月 日

共濟壹錢社

印

姓 名 殿

【註】本規則ハ郵便報知新聞第二四三七號(明治十四年三月二十一日)同紙第二四六二號(同年四月二十日)ニ廣告トシ  
テ掲載サレタルモ字句ノ相違及ビ條款ノ移動ニ止マルヲ以テ之ハ採録セズ





第二類 人保險之部  
書ノ中不都合ト見認メ候廉有之昨三日附ヲ以書面相添相伺置候處更ニ別冊之通正誤致候旨本日届出候然ル上ハ敢テ不都合モ無之ト存候依テ此段及上申候也

東京府ヨリ淺草區長へ回答 明治十四年三月十二日

共濟壹錢社設立届之儀ニ付去ル三日付御伺同四日付御上申之趣有之候處右者元來同志者團結シテ艱難相救之盟約ヲナスニ止リ利益ヲ謀ル營業會社ニハ無之即客年甲第廿一號布達之限ニ非サル者ニ付最前當廳へ出願之節右之旨趣説明ニ及彼ヨリ願書下ケ戻ヲ願出尤規則之精神ニ於テハ不善良ナル所モ有之哉ニ候得共既ニ當廳ノ關スル所ニ無之以上ハ敢テ可否スヘキ譯モ無之ニ付其儘願書下ケ戻シ相成候義ニ有之別ニ豫備金ヲ當廳へ預ル出願モ無之候ニ右之項ヲ其儘存シ置其御役所へ届出ル等ハ甚以無謂事ニ而該項更正以前世間ニ公布セシ分有之モ難量ニ付其邊篤ト御糺之上其品ニ寄新聞廣告等之方法ヲ以正誤致候様御達有之度右之次第ニ付該社届書ハ當廳へ御差出ニ不及候條右届書二回御返却ニ及候此段長官之命ニ依リ申入候也

郵便報知新聞 第二四二三號 明治十四年三月四日  
讀賣新聞 第一八四一號 明治十四年三月十三日

共濟壹錢社廣告

茲ニ十ヶ年ヲ一期トシ一社ヲ創立シ相互ニ救助スルノ方法ヲ設ク概趣意左ノ如シ

社員死亡ノ時ハ 金七拾五圓ヲ贈ル

社員火災ニ罹ル時ハ 金五拾圓ヲ贈ル

社員長病ニ罹ル時ハ 金貳拾五圓ヲ贈ル

入社金ハ壹圓ナリ 滿六十歳以下ハ男女老少ヲ問ハス入社ヲ許ス 入社シタル者ハ月々一錢ツヽ五年(則チ金六十錢)發金スヘシ 救災金取集メハ一錢ト定ム 是ハ万人ノ力ヲ以テ一人ヲ救フノ方法ニシテ協同一致ノ功偉ナラスヤ請フ有志ノ諸君ハ(三月十日ヨリ四月十日迄ニ)本社へ御來車有之度方法規則書等貴覽ニ供スベシ最モ日限内ト云共滿員ノ上ハ入社ヲ謝絶スヘシ

淺草區森田町十八番地

共濟壹錢社

第二類 人保險之部

郵便報知新聞

第二四三四號

明治十四年三月十七日

共濟壹錢社入員諸君ニ告ク

本社タルヤ有志協力一致シテ成立セルモノニシテ其趣意共濟ノ二字ニ止リ社中不幸者アレハ幸者之ヲ補ヒ相互ニ救恤セシムルノ一點ニ注意シ會テ吾輩等私利ヲ先ンセス專ラ彼我ノ便利ヲ謀リ勉勵以テ此良法ヲ公ニ擴充セシメントス故ニ一口加入ノ社員タルモ當社ヲシテ我有ト心得本社ノ成則其當ヲ得スト認ル時ハ隔意ナク報知シテ改良セシメ速ニ滿員ニ至ラシメ以テ益ス隆盛ヲ謀リ賜ハン事ヲ企望ス

社員總代

佐久間 芳造  
栗原 稚松

郵便報知新聞

第二四四〇號

明治十四年三月二十四日

共濟壹錢社副則

第一節 本社創立ノ際ハ東京府下十五區六郡ノ見込ナリシカ社員タルヲ望ムモノ多ク且ツ便利

ノ地ナルヲ以テ更ニ府下十五區六郡外ニ横濱ヲ加ヘ共濟ノ方法ヲ實施スルモノトス

第二節 社員事故アツテ他ノ管轄ヘ移住スルキハ其旨本社ヘ通報シ而シテ引受人ヲ立ツカ又ハ證券ヲ讓渡シ書替ヲ申出ヘシ然ル時ハ證券一枚ニ付金貳錢五厘ノ手数料ヲ收受シ該證券書替ヲ諾スヘシ

第三節 兼テ社員タルモノ事故アツテ脫社セントスルキハ讓受人ト相熟儀シ本社ヘ届ケ出ヘシ然ル時ハ第二節ノ手續キニ從ヒ施行スヘシ

第四節 本社ハ專ラ彼我ノ便利ヲ計ルモノナレハ入社ヲ望ムノ人多忙ニシテ來車スルヲ得サルキ郵便ヲ以テ住所姓名年齢ト印鑑トヲ送致アラハ本社ヨリ證券ヲ持參セシメ金圓受取人ヲ出スヘシ

第五節 社則中戸主ヲ保證ニ相立云々トアルハ別ニ證書ヲ要スルニアラス本人月掛ケ救助ノ出金ヲ怠ルキ弁納スルノ義務アルノミ  
本社役員職務申合規ハ略ス

淺草區森田町十八番地

共濟壹錢社

横濱蓬萊町二丁目十一番地

同 支社

基金ニ付  
説明

郵便報知新聞

第二四五八號

明治十四年四月十五日

○一昨日ノ紙上ニ記セシ淺草森田町十八番地ニ開設セシ共濟壹錢社ノ規則不審ノ儀ニ付昨日同社發起人栗原幸次氏カ來社ニテ語ラル、ニ公布セシ規則書ノミヲ見ル人ハ實ニ基礎金壹万圓ト月掛六千圓及ヒ醗集ノ殘金ヲ社員カ私ニ融通ニテモスル様ニ思ハル、ナランカ入社ノ人々ニ配付セシ内規ニ就テ其疑ヒヲ解カレヨト示サレシ申合セ規則ニ據レハ基礎金壹万圓ノ半額ヲ公債證書ニ替ヘ之ヲ府廳ニ預ケ殘リ半額ト醗集ノ殘金ヲ準備トシテ三井銀行ニ預ケ置キ期滿ツルノ後有高殘ラスヲ社員一同ニ配當シ又毎月ノ集金ハ社入費ニ支出シ每半期ニハ必ラス其出納精算表ヲ新聞紙ニテ廣告シ以テ其確實ヲ示シ且社員ニテ諸帳簿ノ點檢ヲ望ム時ハ少シモ祕セス之ヲ檢閲セシムル等公明ナル内規アレハ中々一錢タリトモ役員之ヲ私シスルヲ能ハス但シ此内規ヲ曩ニ社外ノ人ニ報セサルハ預ケ金ノ義ニ付只府廳及ヒ銀行ノ承諾ヲ得シノミニテ未タ金圓ヲ預ケサルノ間ハ之ヲ公布スル能ハサルカ故ニ前號ニ記セシ如キ疑ヲ惹引シタルモノナリ今此内規ヲ見ルニ及ヒ其正確ナルヲ知り前號ノ疑塊ヲ解キ始メテ其社ノ共濟ノ旨意ニ背カサルヲ信ス

郵便報知新聞

第二四九九號

明治十四年四月十六日

共濟壹錢社廣告

本社入員日々増加スト雖共實ニ三月十日ニ開業シ日猶淺キヲ以テ未タ滿員ニ至ラス然レ共申込半數ヲ過グ故ニ不日滿員センヲ必セリ因テ五月一日ヨリ現員ヲ以テ共濟法ヲ實施ス請フ有志ノ諸君ハ至急入社シ賜ハン事ヲ企望ス且是迄郵便ニテ申込ノ諸君ハ金圓引替ニ證券御渡シ申候間御光來有之度且又御多忙ニシテ來社ノ閑ナキ諸君ハ住所姓名年齢ト印鑑ヲ郵送アラハ當方ヨリ證券ヲ持參セシムヘシ

淺草區御藏前森田町十八番地 共濟壹錢社  
 橫濱蓬萊町二丁目十一番地 同支店

郵便報知新聞

第二四六二號

明治十四年四月二十日

舊規則證  
券文中ノ  
正誤

舊規則證券文中ノ正誤

【本廣告ノ創立緒言及規則ハ之ヲ省略ス(110參照)】

證券中救助金ノ文字ハ總テ共濟金ト改ム第一號裏面第二項(基礎金ヲ差入レ)ノ七字ヲ刪除ス第四項掛金トアルヲ出金ト改ム(改正雛形及ヒ社務内規ハ略ス)

發起人總代

栗原幸次  
 佐久間芳造

第二類 人保險之部

讀 賣 新 聞  
郵便報知新聞

第一八八六號 明治十四年五月七日  
第二四七九號 明治十四年五月十日

二九二

共濟壹錢社々則實施廣告

兼て廣告せし通り五月一日より現員を以て救濟法を實施するに付入社申込み順に増加すると雖も未だ一万員に達せざる間は連日入社を諾し基礎金御差入れより三日目毎に實施社員に組入れ救濟法を施行すべし依て入社御申込のみにて未だ基礎金御差入れ無之方は至急基礎金御差入れあるべし然らざる時は入社御見合の儀と見做し其口を他へ振向け一日も早く實施社員の一方に達せん事を希望す故に有志の諸君は速かに入社し玉ふべし

淺草區御藏前森田町十八番地

共 濟 一 錢 社

横濱太田町一丁目二十一番地

同 支 社

【備考】 尙本廣告ハ讀賣新聞(第一八四九號、明治十四年三月二十四日)ニモアリテ之ニハ次ノ如キ但書アリ  
但し東京府下六郡横濱を限り共濟する事

淺草森田町十八番地 共 濟 一 錢 社  
横濱蓬萊町二丁目十一番地 同 支 社

郵便報知新聞

第二四八五號

明治十四年五月十七日

此ノ一日ヨリ社則通り救濟法實施ニ着手セシ淺草森田町ノ共濟一錢社ノ方法ハ既ニ前號ニモ記セシ如ク至極簡便ニテ中等以下人民ノ爲ニハ實ニ嘉スヘキ企圖ナルカ其方法ヲ奇貨トシテ私利ヲ謀ル破廉耻甚タシキ狡兒アリトイフヨリ同社ノ探偵掛リカ入社員ノ模様ヲ夫々取調ヘシ處牛込新小川町二丁目十八番地美野榮ノ妻やすト神田表神保町一番地吉澤有信トイフ二人ハ一錢社ノ共濟金ヲ横領セントノ工ミニテ明日ニモ知レヌ大病人ヲ探シ歩キ一錢社ノ規則ヲ示シテ入社ヲ勸メ万事自分ニテ引受ケ數株ノ基礎金ヲモ立替ヘテ之ヲ同社ヘ納メ置キ其者ハ死去スルルハ數口ノ共濟金ヲ自分ノ方ヘ受取ル工夫ヲ運ラシ既ニ同人等カ世話ニテ入社セシ小石川江戶町三十五番地榊原弘ノ母せんニ六株、本所綠町一丁目三番地金子鶴吉ノ母まんニハ五株、淺草新平右衛門町一番地堀江芳兵衛方同居ノ藤岡房吉ニ六株ヲ持タセオキシカ右ノ三人ハ何レモ昨今危篤トイフホトノ大病人ナルコトヲ早クモ見出シタル故社則ニ依リ救濟金ヲ施與セサルコトニ

第二編 會社資料

二九三

ナセシカ他ニモ此類カアルヤノ風聞アルニ付同社役人ハ昨今入社員調査ニ奔走中ノ由ナルカ人ノ慈善ニ乗シテ奸策ヲ行フ斯ノ如キハ實ニ禽獸ニ劣リタルモノニテ人間ノ風上ニオクモ苦々シキ次第ナラスヤ

讀 賣 新 聞

第一八九五號

明治十四年五月十八日

共濟壹錢社廣告

社員赤見たま殿本月八日死亡に付本月六日迄の入社現員よりの共濟金を即日同戸主小石川區小日向第六天町十七番地赤見直中殿に贈與致候條社員諸君に報告す

淺草區御藏前森田町十八番地

共 濟 壹 錢 社

共濟金贈與ノ廣告

(124)

讀 賣 新 聞

第一八九六號

明治十四年五月十九日

共濟壹錢社々員諸君に謝す

拙者妻たま(二十八年)儀兼て社員たるの所五月八日吐血症にて死亡候際共濟壹錢社より社則に

共濟金受領感謝ノ廣告

(125)

遵ひ現員よりの共濟金贈遺せられ忝領收致候 依て紙上を以て厚謝候也

小石川區小日向第六天町十七番地

赤 見 直 中

郵 便 報 知 新 聞

第二六〇一號

明治十四年十月三日

社員神田區今川小路二丁目十二番地柴田ひさ(五十八年)九月二十一日長病届出候ニ付直ニ本社常置醫員ヲシテ回診セシメシニ社則ニ適セサルモノト認定シ尙主治醫ノ診斷書ヲ見テ本人ハ病中入社タルコト判然候故除名手續致候處其主治醫近藤玄齡氏ヨリ右診斷書ハ誤リナリト正誤ヲ乞ヒ即チ左ノ謝狀アルニ付本社ハ之ヲ證トシ本人復社爲致候際九月廿六日胃痛ニ罹リ死亡候旨同近藤氏ノ診斷書ヲ添へ届出候ニ付同氏ガ保證スルニ於テハ確實ト見做シ九月廿四日迄ノ現員二口分ノ共濟金ヲ同人娘ぶん殿へ贈致候條謝狀寫ヲ添此段報告候也

神田區鍛冶町十七番地

共 濟 壹 錢 社

醫師近藤玄齡氏謝狀之寫

一拙者施療之患者ナル今川小路二丁目二十二番地柴田ぶん母ひさ儀ハ貴社々員ナルヲ以テ同人

第二編 會社資料

二九五

入社當時ノ健康ニ關スル診斷書

(126)

右承認ノニ付醫師ノ謝狀

長病ニ付拙者診斷書ヲ添へ右届出及候處直ニ貴社常置醫員回診ノ上尙拙者診斷書上ニ經過不分  
 明ノ廉有之再應御尋ネアリタル際昨年春ヨリ胃癌ニ罹リ云々ト認メ御回答申セシヨリ遂ニ本人  
 ハ病中入社ノモノト認定相成御除名ヲ蒙リ候事全ク拙者診斷書ノ誤ヨリ事起リタルモノニテ當  
 人ハ勿論貴社ニモ御手数數相掛候段粗忽ナルコト偏ニ恐縮仕候尤モ昨年春中治療セシコトアルヲ  
 以テ斯ノ如キ誤リヲ記載セシモノナレモ其實貴社へ入社ノ比ハ健全無病ニテアリツルコトハ拙  
 者正ニ保證仕候間本人除名ノ儀ハ御取消シ相願度旨再三願上候處御再議ノ上御許容有之候段辱  
 ク貴社々員諸君ニ向テ此謝狀ヲ呈シ深ク奉鳴謝候也

明治十四年九月念日

本所區藤代町

醫師 近藤玄 齡印

共濟壹錢社々員 御中

共濟壹錢社員ニ深謝ス

實母ひさ九月廿六日死亡候處九月廿四日迄ノ現員諸君ヨリ二口分ノ共濟金御贈付相成辱ク領收  
 仕候右紙上ヲ以テ深謝ス

右ニ對スル社員遺族ノ感謝

尙跡株ハ妾ト愚妹けい引受加入仕候也

神田今川小路二丁目十二番地

領受人 柴田ぶん

朝野新聞

第二四二〇號

明治十四年十月十二日

私利に走らぬ共濟一錢社

神田鍛冶町の共濟一錢社へ入社の方は詐偽を以て共濟金を受領せんと謀るを發見する時は入社  
 金一圓を沒收して除名する社則の處昨今犯則の者多く隨て沒收金の多額に上るを以て共濟の意  
 を擴充せんか爲め其金額の内より創業現費を引去り殘額を積立置き今後各新聞紙上に載する不  
 幸の貧民等へ分與することに極めし由

明治十四年十月十三日

○共濟一錢社 神田區鍛冶町に設け有る共濟一錢社は其の方法の善良なるより入社する者殊に  
 多くある中に却て此の舉を以て奇貨となし詐偽を行ひ共濟金を受領せんと謀る者昨今甚だ多く

第二編 會社資料

債立金ノ内ヨリ貧民へ分與

詐偽者ノ收入社金沒 (128)

然るにこれを發見する時は社則に依り其の入社金一圓を沒收し該詐僞人は除名する方法なるが故に従て沒收金多額に上るを以て共濟の意を擴充せんが爲め其金額の内より創業現費を引去り殘額を積み立て置き各新聞紙上に載する不幸の貧民へ若干づゝを分與することに取極められ該社の私利には聊かたりともせられぬよし誠に嘉すべき舉と云ふべし嗚呼他を害し己を益せんと謀るもの、嘗に己を益するなきのみならず却て己を損するもの世間之れあり共濟一錢社の慈善に基き設立せるを無視しこれを誑かさんとして却て己の損を來せるもの、如きは乃ち此の類なり

(129)

郵便報知新聞

第二六六五號

明治十四年十二月二十一日

共濟壹錢社報告

社員名錄ノ印刷

本社々員姓名錄第四號印刷出來ニ付本日ヨリ配付ス

本社ハ預テ廣告セシ如ク彌々本月廿五日限休業シ來一月八日ヨリ不相替事務取扱候ニ付此段再ヒ廣告ス

神田區鍛冶町十七番地

共濟壹錢社

年頭賀辭 (130)

明治十五年

郵便報知新聞

第二六七三號

明治十五年一月四日

社員諸君ニ向テ恭ク新年ヲ賀ス

明治十五年一月

共濟壹錢社役員

(131)

新年事務開始ノ廣告

郵便報知新聞

第二六七三號

明治十五年一月四日

共濟一錢社廣告

舊年廣告及ビシ如ク本年一月八日ヨリ不相變日々入社員受付竝ニ共濟金授與等一切ノ事務取扱候間此段廣告ス

神田區鍛冶町十七番地

共濟壹錢社

第二編 會社資料

二九九



(132)

募集廣告

郵便報知新聞 第二六七五號 明治十五年一月七日  
共濟壹錢社員募集廣告

本社欠員有之ニ付土曜日ヲ除クノ外毎日入社ヲ諾ス

神田區鍛冶町十七番地

共濟一錢社

(133)

贈金報告

郵便報知新聞 第二六七七號 明治十五年一月十日

共濟壹錢社贈金報告

社員日本橋區川瀨石町十二番地田村幸吉殿(卅二年九月)十四年十二月十五日長病ノ由左ノ容體書相添ヘ届出候ニ付容體書上ニテハ病中入社タルコト判然タルヲ以テ除名手續致候處本人ヨリハ病中入社ニアラサル理由ヲ開陳シ本社醫員ノ實地回診ヲ望ムニ付醫員ヲシテ回診セシメシニ本社ノ醫員ハ僕麻質斯性脚氣症ト診斷シ其容體本人ノ訴フル所ノ如ク認定シ來レリ故ニ其主治醫西村理節氏ニ容體書病源現症共ニ相違ノ廉有之ハ不都合ノ儀ニ付尋問及ヒシ處右ハ全ク自

分誤リナリトテ左ノ謝狀ヲ出シ且本人ノ復社ヲ請ヘリ因テ本社ハ再議ノ上本人ヲ復社セシメ長病社則ニ適スルヲ以テ共濟金ヲ贈與スルコトニ決シ則チ其容體書竝ニ謝狀ヲ左ニ掲ケテ其確實ヲ證明シ十二月廿五日迄ノ現員共濟金ヲ同人ヘ贈致候條此段廣告ス

神田區鍛冶町十七番地

共濟壹錢社

容體書ノ寫

東京府下豊島郡日本橋區川瀨石町十二番地 田村傳七弟

田村 幸吉

嘉永二酉年四月十四日生

容體書

- 一 全身梅毒病
- 一 原發因天行濕熱傳染等之毒
- 一 明治四年春三月四日ヨリ發病是ヨリ以來全身種々ニ變ス或ハ首上ニ結核シ或ハ陰莖腫痛或ハ淋トナリ或ハ小便不利ス同十年春仲ヨリ面目四肢痲痺ヲ覺知而シテ后チ全體浮腫春發夏煩秋患冬ノ病ミ苦痛發作一日トシテ安カラス然ト雖モ未タ強心ナルニ仍テ同十四年五月二

第二編 會社資料

十日ヨリ處法ハ葛根加大黃湯兼前寶丸後寶丸或ハ續寶丸或ハ紫圓梅肉丸應鐘丸等撰用  
右之通私シ治療差加候ニ相違無之候也

明治十四年十二月十二日

同郡同區同町十五番地

醫業 西村理節

共濟壹錢社 御中

醫師西村理節氏謝狀之寫

拙者治療之患者ニテ貴社々員タル日本橋區川瀨石町十二番地田村傳七弟田村幸吉儀長病ニ付診  
斷書ヲ添へ御届及ヒ候處經過竝ニ病體不分明ニ因リ貴社常置醫員ノ回診ヲ乞フニ至リ候上右廉  
々御尋問ヲ蒙リ候處右ハ明治四年三月初旬煤毒病ニ罹リ其際海軍々醫官鏑木融治術ヲ盡シ十余  
ケ月ニシテ全ク快愈同六年以來ハ無病健全ニ有之候然ルニ本年五月廿日突然脚氣症相發シ候ニ  
付拙者治療致候處誤診ヲ醸シ遂ニ本人病中入社ノ者ト御認定相成除名ヲ蒙リ候段全ク拙者診斷  
書ノ誤リヨリ起リ候儀ニテ貴殿へ御手数ヲ相掛ケ粗忽之段恐縮致候就而ハ同人貴社へ入社ノ際  
健全無病タルハ拙者正ニ保證致候ニ付本人除名御取消ノ儀懇々願上候處御再議ノ上御許容被成

醫師ノ謝狀

下候段深ク奉鳴謝候依之貴社々員ニ向テ此謝狀ヲ呈シ候也

明治十四年十二月廿四日

日本橋區川瀨石町十五番地

醫業 西村理節印

共濟壹錢社

社員 御中

共濟壹錢社々員ニ鳴謝ス

私儀脚氣病ニ罹リ既ニ三ヶ月以上引續キ病褥ニアルモ未タ快愈ニ赴カス依テ十二月廿五日迄ノ  
現員諸君ヨリ共濟金御贈與ニ相成忝ク領收ス  
右社員諸君ニ鳴謝ス

日本橋區川瀨石町十二番地

田村幸吉印

共濟金受領感謝ノ廣告

共濟壹錢社規則改良廣告

規則改良廣告

本社儀逐日盛大ニ至リ滿員モ亦近キニアラントス此際尙一層規則ヲ改良シ事務ノ整頓ヲ要スルニ付従前ノ規則ニ一二修正ヲ加ヘリ依テ今修正ノ規則全文ヲ左ニ掲ケテ社員ニ報告シ併セテ社外ノ人ニ廣告ス

共濟一錢社規則

改良規則

第一條 本社ハ神田區鍛冶町十七番地ニ設置シ社員一万口(一人ニシテ五口迄一戸中數名加入スルモ妨ケナシトス)ト定メ年令六十歳以下ハ病中ニ非サレハ男女ヲ問ハス入社ヲ許ス(七歳以下五十五歳以上ハ診査ノ上入社ヲ諾スヘシ尤モ戸主ニ非ザレハ戸主ヲ保證ニ立ツヘキ事)現員一万口ノ外ハ入社ヲ謝絶スルハ勿論假令欠員アルモ役員ノ見込ニ因テハ入社ヲ謝絶スルコトアルヘシ

第二條 本社ハ滿十ヶ年ヲ以テ一期トシ社員相互ニ救濟セシムルヲ以テ專務トナシ有限責任者タルコト

第三條 社員タラント欲スル者ハ印鑑ヲ持參スヘシ、金員出額ノ方法ハ入社ノ際基礎金壹圓(一度限リ)ヲ差入レ且月々一錢ツヅク滿五ヶ年(即チ金六十錢)出金スヘキコト但シ本社ヨリ取集メ人ヲ出スヘシ

第四條 本社ニ於テハ基礎金ノ内半額ヲ銀行ニ預ケ不虞ノ豫備トシ半額ヲ公債證書ニ換ヘ該利子及一ヶ月一錢ツヅクノ集金ヲ以テ滿十ヶ年間ノ社費ニ充テル

第五條 本社ニ於テハ入社員ヘ第一號雛形ノ證券ヲ付シ月掛金受取ノ爲メ第二號雛形ノ符箋ヲ渡スヘシ

第六條 社員死亡ノ節ハ本社ノ書式ニ倣ヒタル主治醫ノ診斷書ヲ添ヘ其旨本社ヘ通報スヘシ、其通報確實ナルコトヲ本社ニ於テ認メシ上ハ即日一口ニ付金七十五圓ヲ遺族ニ渡シ第三號雛形ノ證券ヲ取リ第四號ノ切符ヲ以テ一口ニ付金一錢ツヅク共濟金トシテ取集ムヘシ(但シ過金ハ豫備金ニ組入レ積置キ期限ニ至リ共濟金ヲ領收セサル社員ヘ基礎金ト共ニ割戻スヘシ尤モ人員ノ年月ニヨリ割戻金ニ差異ヲ立ルハ勿論ノコト)

第七條 社員火災ニ罹ル時ハ本社ノ書式ニ倣ヒ届書ヲ差出スヘシ本社ハ役員ヲシテ點檢セシメ確實ナルニ於テハ第六條ノ振合ニ倣ヒ金壹錢ツヅク取集メ金五十圓ヲ渡スヘシ(但書前同斷)

第八條 社員病ニ罹リ三ヶ月以上引續キ病褥ニアル時ハ第六條ノ振合ニ倣ヒ届出ヘシ、本社ハ醫員ヲ派遣シ診斷セシメ最モ重體ト認ムルニ於テハ金壹錢ツヽ取集メ金貳拾五圓ヲ渡スヘシ（但書前同斷）

第九條 社員共濟金ヲ受領スルニ（死亡）（火災）（疾病）公明確實ナルコトヲ以テ報スヘシ、然ラサレバ本社ニ於テ共濟金贈與ノ手續ヲ施行セサルベシ

（但シ詐僞ヲ以テ共濟金ヲ請求シタルヲ發覺スルニ於テハ速ニ除名シ基礎金ヲ返附セサルベシ）

第十條 社員ヘ共濟金ヲ贈與スル制限左ノ如シ

第一點 死 亡 金七拾五圓

但シ自殺及ヒ死狀ニ嫌疑アルモノハ共濟金ヲ贈與セサル事

第二點 火 災 金五拾圓

但シ全燒ニ非サル者及自火或ハ放火スル者又轉居先ヲ本社ヘ通知セスシテ火災ニ罹ルモノヘハ共濟金ヲ贈與セサル事

第三點 疾 病 金貳拾五圓

但シ自傷及ヒ一局處ノ打撲損傷或ハ坐臥自由ヲ得ル輕症ノ如キハ共濟金ヲ贈與セサル事

第十條 社中罹災者一時五十名以上ニシテ右共濟金差出方目下困難ノ輩アル時ハ豫備金中ヨリ一時繰替置キ滿二ヶ月内ニ該金員ヲ本社ニ納メシムヘシ（但シ不納ノ節ハ第十三條ニ照準シ處分スル）

第十二條 本社ハ社長、幹事、取締役、守簿、書記、巡回人ヲ置キ外ニ監理醫員ヲ備ヘ社務ヲ監理スル事

第十三條 社員ニ於テハ一ヶ月一錢ノ出金ヲ怠ル可カラス、若シ二ヶ月以上不納シ又共濟金ノ差出シ方ヲ拒ミ證人ニ於テモ弁納セサル時ハ斷リナク除名シ、基礎金ノ内不納ノ分ヲ引去リ剩餘ノ分ハ期限ニ至リ還附スヘシ（但シ右補欠トシテ新ニ社員ヲ募ルヘシ）

第十四條 本社ノ精算ハ毎年二期新聞紙ヲ以テ報告スヘシ、其他報告ヲ要スル事件アル時ハ郵便報知新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第十五條 社員ノ住所姓名ハ順次印刷シテ各社員ニ配付スヘシ

副 則

第一節 本社創立ノ際ハ東京府下十五區六郡ニノミ施行スヘキ見込ナリシカ社員タルヲ望ム者

多ク且ツ便利ノ地ナルヲ以テ横濱ヲ加ヘ共濟ノ方法ヲ施行スルモノトス

第二節 社員タルモノ事故アツテ他管下ニ轉籍移住ヲ爲スカ二ヶ月以上旅行スル者ハ代員ヲ撰  
ヒ該券讓渡シ書替ヲ申出ツヘシ、然ルルハ證券一枚ニ付金貳錢五厘ノ手数料ヲ收受シ該券書  
換ヲ爲スヘシ(但シ讓受人ハ社則第一條ニ適シ且年齡讓渡本人ヨリ超過セスシテ該規則ヲ遵  
守スルモノニ限ル)

第三節 社員勝手ニ付退社スルニ當リ證券讓受人之ナキ時ハ本社ニ於テ引受クヘシ尤モ此場合  
ニ於テハ基礎金ノ内ヲ以テ現員ニ割合タル創業ノ現費ヲ本社ニ拂ヒ込ムヘキ

第四節 本社ハ頗ラ彼我ノ便利ヲ謀ルモノナレハ入社ヲ望ムノ人多忙ニシテ來車スルヲ得サル  
時郵便ヲ以テ住所姓名年令ト印鑑トヲ送致アラハ本社ヨリ證券ヲ持參セシメ金圓受取人ヲ出  
スヘシ(但シ七歳以下五十五歳以上ノ診査ヲ要スル者ハ此限りニ非サルコト)

第五節 社則中戸主ヲ保證ニ立ツ云々トアルハ別ニ證書ヲ要スルニアラスシテ本社ノ成規ヲ遵  
守スルノ保證タルモノニテ本人月掛ケ及ヒ共濟ノ出金ヲ怠ルルル弁納スルノ義務アルノミ

明治十五年一月改正

(諸雛形竝ニ内規ハ著キ改正ナキニ付略ス)

神田區鍛冶町十七番地

共濟一錢社

郵便報知新聞

第二六八七號

明治十五年一月二十七日

共濟壹錢社員ニ鳴謝ス

私共儀一月廿二日午後三時同町十二番地古畑榮助方物置ヨリ出火ノ際全燒候處一月廿日迄ノ現  
員諸君ヨリ共濟金各壹口分御贈與相成辱ク領收ス右新聞紙ヲ以テ社員諸君ニ鳴謝ス

領收人

芝區西久保巴町十三番地	金子もと
同 十四番地	横地その
同 同	金子忠七
同 同	同
同 同	同
同 同	同

第二類 人保險之部

郵便報知新聞

第二六九一號

明治十五年二月二日

三一〇

共濟壹錢社廣告

日本橋區元柳町廿四番地(柳橋)へ本社新築落成ニ付二月四日ヲ以テ同所へ移轉シ翌五日ヨリ  
不相變事務取扱候條此段廣告候也

右 共濟壹錢社内

共濟壹錢社

共賀壹錢社

朝野新聞

第二五三一號

明治十五年三月五日

日本橋區坂本町の中島徳三郎(十八年)は豫て共濟一錢社へ加入し先比病死せしに彼の社にて  
は病中入社せし者と認むるとして惠與金を贈らざるにより中島の家族は然る違則のとなければ約  
の如く惠與ありたしと頻りに同社へ迫れとも更に取合はざる故、竟に中島より其筋へ訴へ出る  
趣是れには何か子細の有る事なるべし

明治日報

第二〇〇號

明治十五年三月五日

○共濟一錢社 同社は起業一週年と新築落成との祝宴を兼て來る十日江東中村樓に於て賀宴を  
開かるゝに付弊社へも招狀を惠贈せられたり

【備考】 尙同紙第二〇六號(明治十五年三月十二日)ニハ祝賀會ノ況景報道ノ記事アリ

讀賣新聞

第二一三九號

明治十五年三月十二日

○兩國新柳町の共濟壹錢社は新築落成と第一週年起業會とを兼て一昨日東兩國の中村樓へ各新  
聞記者及び同社設立に付き盡力賛成せし人々を招きて祝宴を開かれ席定まりて同社長栗原幸次  
氏に代はりて芳川俊雄氏が同社一週年間の沿革景況等を述べられあと狂言落語或は吉原の翫間  
連の藝盡し等ありて中々盛んな事でありました

朝野新聞

第一五三七號

明治十五年三月十二日

一昨日は共濟壹錢社の起業一週年期日と同社新築落成の祝ひを兼ね江東中村樓に於て祝宴を

第二編 會社資料

三一

開かれ同社員並は盡力されし諸氏百名餘且つ各社新聞記者をも招待にて社長栗原幸次氏に代りて芳川俊雄氏か同社創業以來の景況を報道され畢て響應あり能狂言音曲等の興を添へられ頗る盛宴にてありし

東京日々新聞 第三〇八八號 明治十五年四月一日

○共濟一錢社員に鳴謝す

私共儀三月廿四日午前一時同區川瀬石町十五番地(本材木町二丁目五番地との境にある物雪隠)より出火の際全燒候處本社役員検査の上三月廿二日迄の現員諸君より共濟金御贈與相成辱く領收す依て此段社員諸君に鳴謝す

日本橋區本材木町二ノ五 櫻井伊助

同 同 ゆき

同 同 しま

全燒共濟金受領鳴謝廣告

贈金報告

郵便報知新聞 第二八七七號 明治十五年九月十一日

共濟壹錢社贈金報告

社員神田區三崎町二丁目一番地大岡直行殿儀既ニ肺結核ニ罹リ再度迄長病共濟金ヲ贈致セシノ處遂ニ同症増進シ八月十二日死去ノ由醫師竹内三嗣氏ノ診斷書ヲ以テ届出タルニ付其筋へ照會セシニ事實相違無之依テ同月十日ノ現員共濟金ヲ九月七日同人實母良殿へ贈致候條此段報告ス

日本橋區元柳町二十四番地

共濟壹錢社

社則改正廣告

明治十六年

郵便報知新聞 第二九五二號 明治十六年一月十一日

共濟壹錢社々則改正廣告

今般役員協議ノ上左之通り社則ヲ改正ス社員諸君へハ右改正規則ヲ一部宛巡回人ヲ以テ配達仕候得共不取敢當新聞紙ヲ以テ報告仕候尙改正規則ハ二月一日ヨリ實施候間有志ノ諸君ハ左ノ規則御熟覽ノ上御入社アランコヲ乞フ

第二編 會社資料

共濟壹錢社々則改正趣意

改正趣意

本社ハ明治十四年三月十日ヲ以テ東京淺草區森田町ニ開設シ數旬ニシテ一千餘名ノ加盟者アリ  
依テ同年五月一日ヨリ共濟法ヲ實施セシニ一週年ニシテ四千餘名ニ達セリ斯ノ如ク同志者ヲ得  
ルハ蓋シ之レ共濟法ノ世ニ欠クベカラザル所以ナリ然ルニ世間ノ狡兒此共濟法ヲ奇貨トシ本社  
類似ノ社ヲ設ケ世人ヲ眩惑シ細民ノ膏血ヲ絞リ幾クモナクシテ閉社スルモノ陸續輩出シ爲ニ吾  
社ノ如キモ大ニ世人ノ疑ヲ招クニ至リ實ニ遺憾ト云ハサルヲ得ス依テ吾吾發起人ハ益々確實ヲ  
旨トシ社員ノ便宜ヲ謀ラント不撓ノ精神ヲ奮ヒ社運ヲシテ倍々擴張セシメンカ爲メ茲ニ社則ヲ  
改良ス江湖ノ諸彦左ノ條款ヲ熟覽シテ尙賛成加盟アラントヲ冀望ス

改正社則

社 則

第一條 目的

本社ノ目的ハ資産ノ大小ヲ問ハス本籍寄留ヲ論セス東京及横濱ニ在住セル同志者ヲ募リ口數一  
万ヲ以テ滿員シ結社員中死亡火災ニ罹ル不幸アルハ互ニ相救濟セシムルニアリ

第二條 社名及位置

本社ハ社名ヲ共濟一錢社ト號シ本社ヲ東京日本橋區元柳町廿四番地ニ設ク

第三條 役員

本社ハ社長幹事出納取締守簿ノ役員ヲ置キ事務ヲ取扱ヒ別ニ醫員監理ヲ備ヘ社務ヲ整理ス

第四條 社員

第一節 本社ノ社員タラント欲スルモノハ年齢六十歳以下ニシテ病中ニ非サレハ何人ニ限ラス  
入社スルコトヲ得

但一人ニシテ五口迄一戸中數名加入スルモ妨ケナシトス

第二節 社員タラント欲スルモノハ入社金壹圓(一度限り)ヲ差入レ印形ヲ持參スヘシ役員面  
會ノ上之ヲ承諾シ其姓名ヲ帳簿ニ記載シ本社ヨリ社員タル旨ヲ證スル爲メ第一號ノ證券ヲ交  
付シ社員ニ組入ルヘシ

但印形之レナキ人ハ其戸主又ハ親戚ヲ保證ニ立テ其印鑑ヲ本社ニ差出スヘシ

第三節 社員タルモノハ日々壹錢ノ割合ニテ一月金三十錢ヲ共濟金トシテ差出シ外ニ現社員ニ  
割合タル社費ヲ毎月出金スヘキ

但共濟金及ヒ社費取集メハ第六條第一節第二節ニ依リ取集ムル

第四節 社員中火災ニ罹ルカ或ハ死亡スルハ其旨ヲ届出ベシ本社ニ於テハ第五條第一節第二



節ニ依リ共済金ヲ贈致スヘシ

第五節 社員事故アリテ證券ヲ他へ譲渡スハ勝手タルヘシト雖モ退社スルキハ入社證金ヲ返戻スルニ止マリ共済剩餘積立金ハ返戻セザルモノトス尙二ヶ月以上共済金及ヒ社費ノ出金ヲ怠ルキハ社員ノ權利ヲ失フ者トス

第五條 共済金贈致手續

第一節 社員火災ニ罹ルキハ第四號雛形ノ如キ届書ヲ以テ届出ヘシ本社ニ於テハ役員ヲシテ其實地ヲ點檢セシメ確實ナルニ於テハ一口ニ付金五十圓ヲ贈致スヘシ

但右ハ滿員ノ割合ナルヲ以テ其滿員セサル間ハ現員ニ割合タル金額ヲ贈致スルモノトス

第二節 社員死亡スルキハ其遺族又ハ證人ヨリ主治タル醫師ノ診斷書ヲ添へ第五號雛形ノ如キ届書ヲ差出スヘシ本社ニ於テハ速ニ事實ヲ糺シ遅クモ一週間内ニ一口ニ付金七十五圓ヲ贈致スヘシ

但書前同斷

第三節 社員中一ヶ月間ニ火災死亡ニ罹ルモノ三十口以上アルキハ豫備金中ヨリ繰替へ共済金ヲ渡スモノトス

三十口ニ滿サルキハ残り口數タケ其翌月五日午前十時本社ニ於テ抽籤シ其抽籤ニ當リタル社員ヘハ同月十日迄ニ一口ニ付金五十圓宛贈致スヘシ依テ抽籤當日ニハ有志ノ社員十名ヲ限り臨監スルヲ許ス

但書前同斷

第四節 社員火災ニ罹リ或ハ抽籤ニ當リ共済金ヲ受クルト何度ニ及フモ社員タルノ權利ヲ失ハサル以上ハ其共済金ヲ受クヘキモノトス

但一度抽籤ニ當ル時ハ一年間抽籤ノ權ヲ失フモノトス

第六條 共済金及ヒ社費取集メ手續

第一節 共済金取集メ方ハ社員ノ便宜ヲ計リ一ヶ月三回(一回十錢)第二號雛形ノ如キ請取證書ヲ以テ取集メ人(巡回人ト云フ)ヲ差出スヘシ社員ハ念リナク該證書ト引替へ出金スヘシ但社員ノ便宜ニ依リ五回ニ掛込ムモ最初ノ約定ニ依リ取集メヲ爲スヘシ

第二節 社員ハ一ヶ月分預備金中ヨリ繰替へ支出シ置キ其翌月三日迄ニ精算シ之レヲ第一回共済金取集メノ節第三號雛形ノ如キ符箋ヲ以テ取集人ヲ差出スヘシ社員ハ該請取書ト引替へ其金ヲ拂フヘシ

但入社證金及ヒ共濟金ノ剩餘ヲ積立テ公債證書ヲ買入レ該利子ヲ以テ社費ヲ償フニ至レハ社費取集ヲ廢スヘシ

第七條 滿期及配當金

第一節 本社ハ滿十ヶ年即チ明治十四年五月一日ヨリ共濟法ヲ實施セシヲ以テ之レヲ初期トシ明治廿四年六月ヲ以テ滿期トス其間贈致セシ共濟金ノ剩餘金ハ勿論本社ニ備フル所ノ共有物ヲ賣却シ其金額ハ共濟金ヲ受ケザル社員一同ヘ配當スヘシ

但 年月遅速ニ依リ配當金ニ差違アルヘシ

第二節 滿期ノ節入社證金(壹圓)ハ共濟金受不受ニ關セス一同ニ返戻スヘシ

第三節 本社滿期ニ際シ一旦ハ解社スルモ社員一同ノ協議ニ因テハ其年限規則ヲ定メ之ヲ繼續スルコトアルヘシ

第八條 本社報告

本社ヨリ毎月共濟贈金ノ決算ヲ印刷シ之レヲ社員ニ頒布シ尙オ社則修正及ヒ月々入社員數贈金等ノ報告並ニ年度決算報告ハ郵便報知同盟改進及繪入有喜世ノ四新聞ヲ以テ報告スヘシ

明治十六年一月改正

東京日本橋區元柳町二十四番地

共濟壹錢社

朝野新聞

第二七七九號

明治十六年一月二十五日

東京日々新聞

第三三三四號

明治十六年一月二十五日

本社は明治十四年三月淺草區森田町に開設せしに數回にして千餘名ノ入社員あり、依而同年五月より共濟法を實施し、同年九月神田鍛冶町へ轉ず、又十五年二月新築落成して當今ノ所へ移す、其間一週年にして社員四千餘名に達せり、然るに今日尙四千二百に止まり著しき増減なきは蓋し社則ノ不完全なるならんと役員一同協議を遂げ、世ノ人情風潮に従ヒ社則を改正せしに社員諸君ノ贊成過半數を得たり、依て本年二月一日より改正規則を實施す、願くは東京横濱に在住せる有志の諸君は陸續御加盟あらんことを

但改正社則は報知新聞貳千九百五十一號に掲載す、尙社則御望に候は、御申込次第速に郵送すへし

日本橋區元柳町二十四番地

共濟一錢社

三二〇

(145)

十六年五  
月中贈金  
廣告

郵便報知新聞 第三〇七六號 明治十六年六月九日

共濟壹錢社五月中贈金廣告

社員神田區西福田町二番地間中殿同居中澤熊次郎殿儀慢性胃腸加答兒ニ罹リ死亡  
 社員淺草區新谷町二番地平井篤治郎殿儀中風症ニ罹リ死亡  
 社員本所區柳島橫川町十壹番地村瀬清助殿胃痛症ニ罹リ死亡  
 社員淺草區松山町十二番地白崎甚助殿母ます殿中風症ニ罹リ死亡  
 社員神田區松富町四番地關りう殿慢性盲腸炎ニ罹リ死亡  
 以上五口死亡共濟金ヲ贈致ス

右記載ノ通五月中ハ贈金口數五口ニ付改正規則第五條三節ニヨリ社員臨監ノ上抽籤候處左ニ記載ノ證券番記號當籤相成候間當籤者へ贈金ス(臨監社員並ニ當籤社員住居姓名ハ本社ヨリ社員ニ配付スル所ノ報告書へ記載セルヲ以テ新聞紙ニハ略ス)

第一ろ卅一號 第二は六十三號 第三に六十八號 第四は百四十號 第五む六十號 第六い百十二號 第七へ八十五號 以下略  
 以上二十五口贈致候條此段廣告候也

日本橋區元柳町二十四番地

共濟壹錢社 幹事

日東共濟社

明治十四年

郵便報知新聞

第二四四五號

明治十四年三月三十日

日東共濟社廣告

弊社曩ニ共濟共恤ノ法ヲ設ケ獨リ埼玉縣下ニ而已施行候處他府縣下ヨリ續々入社申込有之ニ付該法ノ區域ヲ擴張スル爲メ東京市内ニモ施行ス依テ社則ノ一二要點ヲ摘ンテ左ニ掲ク入社ヲ望ム諸君速ニ本社ヘ申込アルヘシ

社員ハ五百名ヲ以テ一組ト定メ一期ヨリ順次募集ス 社員ハ年令五十歲以下十五歲以上ニシテ戶主ニ限ル 入社ノ時積金六圓後備掛金一圓證券料五十錢ヲ出ス 社員死亡スレハ金千圓ヲ惠與ス 社員死亡スル毎ニ共濟金二圓ヲ出ス 毎年の籤ヲ以テ社員二名ヘ惠贈金ノ内五百圓ツヅラ給ス

埼玉縣下川越宮下町四十二番地

日東共濟社

募集區域擴張廣告

(146)

社則概要

共濟万人社

明治十四年

共濟万人社創立御願

今般有志申合日本橋區小網町四丁目五番地於テ別紙之社則ヲ施行シ開業仕度候間何卒蒙御免許度別紙社則書相添此段奉懇願候也

日本橋區小網町四丁目五番地寄留

山口縣平民

發起人 下瀬 一樓

明治十四年四月十二日

右同番地

平民

發起人 安川善兵衛

東京府知事 松田道之殿

第二編 會社資料

創立願 (147)

(147)

右出願ニ付奥印候也

東京府日本橋區長 館 奥 敬印

(148)

共濟万人社創立緒言及規則

緒言

今ヤ共濟惠恤ノ法ヲ設ケ一社ヲシテ豫メ不慮ニ備ヘ相互ニ共救セシムル等ノ方行ハルハ最モ好ス可キ良法ニシテ眞ニ開明進歩ノ餘澤ヲ被ルモノト云ヘシ然リ而シテ其方法タル或ハ入金ノ多キ或ハ救恤出金ノ多キヨリ細民ニ至リテハ其志シ有モ亦果スヲ得ス嗚呼何ソヤ此良法ヲシテ普ク及サハル是有志者ヲシテ遺憾ナカラシメザル何ソ生等今回有志ノ諸彦ト謀リ茲ニ共濟万人社ヲ創立シ以テ廣ク社員ヲ募リ共濟惠恤ノ方ニ於テ有志輩ヲシテ遺憾ナカラシムル所ニ至ラシメントス依テ今其條款ヲ定ムルヲ左ノ如シ

共濟万人社規則

第一條

本社ハ日本橋區小網町四丁目五番地於テ設置シ社員壹萬(壹人ニシテ數口一戸中數名加入スルトモ碍ケナシ)人ト相定メ年齡

規則

緒言

六十歳以下老幼婦童ヲ論セズ入社ヲ許ス最モ戸主ヲ保證ニ相立ヘキ事  
但滿員ノ上ハ入社ヲ許サズ

第貳條

本社ハ滿十ケ年ヲ以テ一期トシ社員相互ニ共恤セシムルヲ以テ專務ト爲ス事

第三條

本社ニ於テハ金五千圓ヲ三井銀行預ケ不慮ノ豫備トシ金五千圓ヲ以テ公債證書ヲ買入レ該利子及一ケ月壹壹宛ノ集金ヲ以テ滿十ケ年間ノ社費ニ充テ剩餘アレハ一期內救助金ヲ領受セサル社員ヘ基礎金ト共ニ返附スヘシ

第四條

社員タラント欲スル者金員出額ノ方法ハ入社ノ際金壹圓ヲ差入レ翌月ヨリ毎二十五日ヲ以テ金壹錢宛滿五ケ年間(即チ金六十錢)發金スヘキ事  
但シ本社ヨリ取集メ巡回人差出候事

第五條

本社ニ於テハ入社員ヘ第一號雛形ノ證券ヲ付シ及ヒ月掛金受取之都度第貳號雛形ノ小切符ヲ渡

スベシ

但寄留止宿ノ仁本社員タラント欲セバ其戸主ヲ以テ保證ニ相立ヘキ事

第六條

社員死亡ノ節ハ其旨本社へ通報スヘシ然ル時ハ即日本社ヨリ金七拾五圓(數口ヲ有スル者ハ一口ニ付テ)ヲ遺族へ相渡シ第三號雛形ノ證ヲ取り而後是ヲ證トシ一口ニ付金壹錢(數口ヲ有スル者ハ一口ニ付テ)救助金トシテ取集メ本社ヨリ第四號雛形ノ受取證ヲ差出スベシ

但過金ハ本社基礎金ノ内へ組入レ積置キ期限ニ至リ救助金ヲ領取セサル社員へ基礎金ト共ニ割戻スベシ

第七條

社員火災ニ罹ル時ハ第六條ノ振合ニ做ヒ金壹錢宛取集メ罹災者へ金五拾圓ヲ相渡スヘシ

但書前同斷

第八條

社員三ヶ月以上ノ長病ニ罹ル時ハ第六條ノ振合ニ做シ金壹錢宛取集メ金貳拾五圓ヲ該患者へ相渡スヘシ

但書前同斷

第九條

社員救助金ヲ領受スルニハ妻妾長次男其他皆戸主ヲ保證ニ相立(死亡・罹災・疾病)公明確實ナル事ヲ以テ報スヘシ然ラサレハ本社ニ於テ救助金附與ノ手續キヲ施行セサルヘシ

但偽リヲ以テ渡シ金ヲ請求シタルヲ發覺スルニ於ハ速ニ脱社セシメ基礎金ヲ返却セサルヘキ

第十條

社員へ一期内救助金ヲ相渡ス制限左ノ如シ

第壹節 死 亡 金七拾五圓

但故意ニ出テ自殺スル者へハ渡金ヲ爲サルベシ

第貳節 罹 災 金五拾圓

但自火及ヒ放火スル者へ渡シ金ヲナサルベシ

第三節 疾 病 金貳拾五圓

但檢査ノ上醫員ノ診斷書ヲ要スル

右者入社員滿五千名ヨリ施行ス

第十一條

社友へ救助金ヲ差出ス節ハ本社ヨリ其證ヲ持參セシメ取集メ人巡回致サセルニ付各員モ惠心ヲ以テ快ク發金スヘキ事

第十二條

社中罹災者一時五拾名以上ニシテ右救助金差出シ方目下困難ノ輩アルハ本社ニ於テ豫備金ノ内ヨリ一時繰替置キ滿二ヶ月ニ該金員ヲ本社へ納シムヘシ

但不納ノ節ハ第十三條ニ照準シ處分スル

第十三條

社員ニ於テハ壹ヶ月零錢ノ掛金ヲ怠ル可ラズ若シ二ヶ月以上不納スル時ハ斷リナク除名シ基礎金ノ内一期中ニ差出シタル救助金ヲ引去リ剩餘アレハ期限後一ヶ月内ニ還付スベシ

第十四條

本社ハ社長一名幹事一名簿記二名庶務二名巡回人四名ヲ置キ社務ヲ管理スル事

第十五條

本社ノ精算ハ毎年二期新聞紙上ヲ以廣告スヘシ  
右拾五條ニ議定候條臨機更正ヲ加ル節ハ同濟之上實施致ス可ク候也

雛形

第壹號

番號 記號

共濟万人社員之證

印割

今茲ニ有志會同シ創立セル本社ノ規則ニ遵ヒ入社ノ義ヲ希望アルニ付正ニ承諾シ基礎金壹圓ヲ受取り此證券ヲ付シ物故罹災疾病之時社則之通り救助金相渡ス事ヲ確約ス以上ハ毎月金壹錢ツ、滿五ヶ年間出金コレ有可キモノナリ依之社員タルヲ證明スルノ如件

明治 年 月 日 共濟万人社 印  
姓 名 殿

第壹號

記

- 一、救助金ヲ領受シタル者ハ更ニ基礎金ヲ差入レ證券ヲ請ルベキ
- 一、轉居スル片ハ其區町村番地ヲ本社エ届出ツベキ事
- 一、斷リナク旅行シ二ヶ月以上月掛金ヲ不納スル時ハ社則第十三條ニ照準シ處分ス可キ事
- 一、此證券水火盜難遺失ノ節ハ速ニ本社エ届出ベシ取調ノ上書替證券ヲ相渡ス可キ事
- 一、此證券ヲ請取タル者ハ番號記號篤ト扣エ置ベキ事
- 一、社則十三條ニ照シ所分ナスモノニ付此證書ヲ以テ金錢融通ナスヲ禁ス

幹事姓名 ㊟

(裏)

第貳號 小切符

番號	記號
金壹錢也	共濟万人社印
右何月分正ニ領收候也	
年月日	
姓名 殿	



印紙

受取證  
救助金受取之證

但入社證券 番號 記號 社員

金若干圓也

右者某<sup>(死亡)</sup><sub>(疾病)</sub>ニ付同盟ノ社中ヨリ救助トシテ前書ノ金額被贈遺候段忝ク親類立會正ニ領受致候也

年 月 日

何區何地

本人 姓名 名 印

何區何地

親類 姓名 名 印

共濟万人社長宛

第四號

巡回人受取檢印  
取集メ切符

番號 記號

印割 金壹錢也

右ハ社員某殿<sup>(死亡)</sup><sub>(疾病)</sub>ニ付社則ノ通御授與有之度即受取切符差出ス事如件

年 月 日

共濟万人社 印

姓名 殿

(149)

概則並ニ  
募集廣告

讀 賣 新 聞 第一九七六號 明治十四年八月二十三日

共濟萬人社廣告

一、本社概則

社員は一人を限る  
 年齢六十五年以下十五年以上は男女共入社を得  
 入社金參十錢(但し一度限り)  
 社費金一錢宛(但し毎月出金)  
 共濟金は社員罹災の都度に金一錢づゝ出金  
 社員死亡の時は共濟金八十圓を贈る  
 疾病なれば金參十圓  
 火災なれば金五十圓なり

右の方法を以て九月一日より實行仕候間有志の諸君は左の番地へはがきにて御申込あらば本社より人を差上申候又社則御入用の御仁へは呈上可仕候

淺草區淺草小島町七九 共濟萬人社

明治十四年八月

(150)

募集廣告

讀 賣 新 聞 第一九七八號 明治十四年九月十七日

共濟萬人社廣告

兼て廣告候如く本月一日より現員を以て實行致し來り候處即今非常に社員増加すと雖も未だ満員に至らず依て尙社員を募集す、有志の諸君は「はがき」を以て御入社御申込あるべし、本社よりは役員出張御加入手續取扱可申候且本社則本月十八日迄に印刷出來に相成申候間御望みの御仁へは進呈すべし

但入社する事を得る人は東京府下居住の者及横濱區居住の者に限るべし

【社則大略ハ省略ス、次ノ附加ノミヲ掲グ】

解社の時は入社金は勿論社有の金は社員入社年月の早晚に因り平等の割戻す可し

淺草區淺草小島町七拾九番地

共濟萬人社

明治十四年九月

第二編 會社資料

(151)

郵便報知新聞 第二六〇六號 明治十四年十月八日

共濟万人社員募集廣告

社員未滿ニ付日々入社ヲ諾ス有志ノ方ハはかきニテ御申込アレ役員出張御加入取計可申候社則概略 社員ハ壹万人ヲ限ル 滿六十五年以下十五年以上ハ十口迄男女共入社ヲ許ス 入社金三拾錢 社費毎月金壹錢出金 共濟掛金ハ社員罹災ノ都度金壹錢出金 社員死亡ノ時ハ金八十圓 火災ハ金五十圓 病氣ハ金三十圓贈ルナリ

淺草區淺草小島町七十二番地 共濟万人社

郵便報知新聞 第二六三七號 明治十四年十一月十七日

共濟萬人社 移轉並ニ社員募集廣告

從來假本社ヲ淺草區小島町ニ置キ社務取扱ヒ來リ候處日々社務繁忙ニ至リ手狹ニ付十一月十五日ヲ以テ假本社ヲ下谷區御徒町一丁目七番地ニ移シ來春本社新築迄ハ右ニ於テ社務取扱候依テ此段社員諸君へ廣告仕候

移轉並ニ  
募集廣告ニ

(152)

且社員未滿ニ付日々入社ヲ諾ス有志ノ諸君ハはかきニテ御申込アレハ本社ヨリ役員出張御加入取扱可申候

社則大略

- 一 入社金三拾錢 社費壹錢 共濟掛金社員罹災ノ都度一口ニ付金壹錢ツツ出金 社員死亡ノ時ハ金八拾圓 火災ノ時ハ金五拾圓 病氣ナレハ金三拾圓ヲ贈ルナリ

下谷區御徒町一丁目七番地

共濟万人社

讀賣新聞 第二〇六二號 明治十四年十二月六日

共濟万人社員に厚謝す

父古澤佐兵衛事十一月廿日死亡候處十一月十五日迄の現員諸君より一口分共濟金速に被贈下候段忝く確收致候 依て茲に鳴謝す

確收入 古澤 吉治郎

本所區林町二丁目九番地

共濟金受  
領感謝廣  
告

(153)

(154)

郵便報知新聞

第二六六號

明治十四年十二月二十二日

第二六七八號

明治十五年一月十一日

共濟万人社々員募集廣告

社員未滿ニ付日々入社ヲ諾ス、はかきニテ御申込アレ

下谷區御徒町一丁目七番地

共濟万人社

募集廣告

(155)

分 光 社

明治十四年

分光社申合規則

明治十四年四月(十五年二月刊行)

夫人生貴賤尊卑ヲ問ハズ生ヲ養ヒ死ヲ送リ一ノ遺憾無カラシメムト欲スルハ鄒翁ノ言ヲ俟  
 ス天然ノ眞精神然ルヲ期セスシテ然ルモノナリ是レ近時有志諸賢五百名社千名社躋壽社等  
 ノ創意アル人應スルヲ期セズシテ而テ應スル響ノ聲ニ於ル影ノ形ニ於ルガ如キ所以ナリ顧  
 フニ曩ノ數社ナルモノハ其意則美ナリ其法ハ則全シ然レモ皆多ク死後ノ榮光ニ係ル若シ生  
 前安富尊榮如意圓滿ナルモノハ只死後ノ安樂ヲ以テ足レリトセム抑人生順逆吉凶毎ニ相半  
 ス古人缺陷世界ノ語アル亦宜ナラスヤ或ハ生前作善慈惠ノ德ヲ積ミ或ハ兒孫ヲ教養シテ老  
 後ヲ防グノ志ヲ抱クモ時々家計ノ累アリ又他ノ事故アリテ其願ヲ充ザル者モ亦鮮々ナラズ  
 於是乎死後遺憾ナク生前モ亦其分願ヲ得セシメ以テ顯幽偕ニ濟フノ圖アラムコトヲ希ヒ有志  
 相謀テ此ノ一社ヲ設ク其規則ノ如キハ左方ニ記ス冀クハ慈善ノ諸君子惠然贊成加名アラム

第二編 會社資料

コトヲ

明治十四年四月

分光社申合規則

第一號

第一條

本社ハ社員五百名ト定メ分光社ト稱ス

第二條

年齢滿六十歳以下滿二十歳以上ノ戸主本籍寄留ノ別ナク身體壯健ニシテ此條規ヲ遵守スルニ於テハ入社スルコトヲ得ヘシ

但戸主入社セスト雖モ之ヲ引請ルニ於テハ其家族ノ入社ヲ許スヘシ

第三條

入社セントスル者ハ第二號雛形ノ契約書ヲ出スヘシ

第四條

申台規則  
第一號  
第四號

入社セシ者ヘハ第一號雛形ノ證券及ヒ社印發起人等ノ捺印アル規則書ヲ與ヘ社員タルヲ證ス

第五條

府下十五區六郡ノ社員中ヨリ一郡區毎ニ委員二名宛ヲ公撰シ猶委員ニ於テ更ニ幹事三名ヲ撰舉シテ社中一切ノ事務ヲ總管セシム

但委員二名ト豫定スレモ其郡區社員ノ多寡ニ因リ人員ヲ増減スル事アルヘシ尤幹事委員ハ社員ニ對スルノ義務ナルヲ以テ給料ナキモノトス

第六條

社中或ハ社外ノ者ヲシテ書記二名小使一名ヲ備ヒ事務ヲ掌ラシム

但瑣末ノ件ト雖モ幹事ノ承認セザレバ書記專行スルヲ許サズ

第七條

創社積金トシテ各員ヨリ金四圓宛ヲ出シ合金貳千圓ヲ以テ公債證書ヲ購求シ之ヲ府廳ニ預ケ其利子ヲ以テ一切ノ社費ニ供ス

但本條積金ハ渾テ返附セザルモノトス

第八條

社員ハ前條積金ノ外各自金貳圓ヲ出シ合金千圓ヲ以テ共濟ノ豫備金トス尤此ノ金員ハ死者アルトキノ豫備金ナルヲ以テ平素ハ銀行ヘ預ケ置クヘシ  
但書前ニ同ジ

第九條

社員ハ毎月廿日迄ニ必ス金貳圓宛ノ惠與金ヲ日本橋區南茅場町十二番地第十三國立銀行支店ヘ送付ヘシ

但第三號雛形ノ帳簿ヲ製シ其都度出金ノ領收ヲ證ス右日限内ニ送付之ナキトキハ各社員ノ印鑑簿ヲ以テ受取人ヲ差出ス故ニ手数料トシテ金三錢ヲ添ヘ即時相渡スヘシ尤不在等ニテ再度ニ及ブトキハ更ニ手数料ヲ要スルモノトス

第十條

毎月各社員ヨリ出ス所ノ合金千圓社中死者ノ遺族ニ惠與ス死者ナキトキハ其翌月第二土曜日抽籤法ヲ以テ中籤者ヘ之ヲ與フヘシ

但中籤者惠與ノ際領收金千圓ノ内ヲ以テ一ケ年金廿四圓ノ利米ヲ生スル公債證書ヲ購求シ之ヲ幹事連署府廳ヘ預ケ第四號<sup>甲</sup>ノ契約書ヲ交換シ置キ其利子ヲ以テ月々ノ惠與金ニ充ツ尤公債

證書ノ利子金下附アルハ其種類ニ依リ年一期若クハ二期ナルヲ以テ其間惠與ノ月納金ハ更ニ拂込ムヘキモノトス

第十一條

前條但書ノ公債證書ハ本人即チ中籤者ノ記名トナスト雖モ生存中ハ之ヲ自由ニナスコトヲ禁ス尤本人死去セシ上ハ遺族所有ノ全權ヲ有スルハ勿論其請求アルニ於テハ證書引換ニ相當ノ現金ヲ付與スヘシ

第十二條

府廳ヘ預ケタル公債證書大藏省ノ的簽ニヨリ現金下附アルトキハ幹事立會本人其金員ヲ領收スルノ後更ニ同額ノ公債證書ヲ購求シ先規ノ如ク府廳ヘ預ケ置クヘシ

第十三條

社員ノ相識ヲ要センカ爲メ毎年一月總集會ヲ開クベシ

第十四條

死者アリテ抽籤ヲナサル月ハ遍ク其旨ヲ社員ニ報道ス故ニ其報知ナケレハ左ニ記列ノ人員ハ毎月第二土曜日午後第一時淺草本願寺抽籤場ヘ出張スヘシ

幹事 全一員 三名  
委員 全員ノ半数毎會交代

第十五條

前條ノ如ク幹事ハ委員ノ眼前ニ於テ抽籤ヲナシ而テ中籤者ヘハ即日郵書ヲ以テ之ヲ報道スヘシ  
但中籤者ハ他ノ社員ト讓換ヲナスコトヲ禁ス

第十六條

一月内死者兩三名ニ及ブトキハ其人員ニ應シテ惠與ス例セハ死者三名アルトキハ三ヶ月間抽籤ヲ停メ金三百三十三圓三十三錢三厘宛三ヶ月ニ割合全額ヲ渡スモノトス  
但不幸ニシテ死者四五名ニ上ルトキハ委員協議ノ上處分スルコトアルヘシ

第十七條

社員死去セシ時ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即日遺族ヨリ本社ヘ報道スヘシ尤前條ニ掲載スル如ク其月死者ノ員數ニヨリ惠與ノ金額差異アレハ報知ヲ得タル日ヨリ五日間ニ豫備金ヲ以テ先ヅ全額十分ノ二ヲ贈リ月末規則ニヨリテ其殘餘金ヲ惠與スベシ

但生前既ニ惠與ヲ受ケタルモノハ府廳ヘ預ケ置タル公債證書下ケ戻ヲ乞ヒ遺族ヘ交付スヘシ

第十八條

社員中若シ刑律ニ係リ處斷ヲ受ル者ト雖モ其家族及ビ保證人之ヲ引受ケ必ス月納金ヲ出スニ於テハ抽籤竝ニ死後ノ惠與金ヲ受クルハ衆社員同一タルヘシ

但死刑ニ處セラレタル者ノ遺族ハ惠與金ヲ受クルノ權ナキモノトス

第十九條

第七條、第八條、第廿八條ニ掲ル所ノ餘有金ハ渾テ公債證書ヲ買得シ之ヲ府廳ヘ預ケ置キ廿二條老養ノ資ニ充ツベシ

第二十條

他管下ニ在住ノ者死去セシトキハ本管役場ヘ照會濟ノ上惠與金ヲ送附ス尤規則ニ牴觸セシ廉等アリテ本社ヨリ書記ヲ派出セシメ調査ヲナスコトアルトキハ其旅費等本人或ハ引受人ヨリ之ヲ差出スベシ

第二十一條

故意ヲ以テ自殺セシモノ、遺族ハ惠與金ヲ受クル權利ヲ失フモノトス

但其事情實ニ憫諒スベキ特殊ノ廉アルトキハ委員協議ノ上惠與金ヲナスコトアルベシ尤瘋癲者

ハ本條ノ限ニアラズ

第二十二條

中簽者ニ在ラズシテ左ノ年限ニ及ビタル者ハハ養老ノ資トナシ中簽者ト同一ノ處分ヲナスベシ

滿廿歲以上滿卅歲迄ニテ入社セシ者

年齡滿五十歲トナリタル時

滿卅歲一ヶ月以上滿四十歲迄ニテ入社セシ者

年齡滿六十歲トナリタル時

滿四十歲一ヶ月以上滿五十歲迄ニテ入社セシ者

年齡滿七十歲トナリタル時

滿五十歲一ヶ月以上滿六十歲迄ニテ入社セシ者

年齡滿八十歲トナリタル時

第二十三條

死者ノ相續人第二條ノ年齡ニ適セハ先思ヲ繼キ入社スルモノトス

第二十四條

不得止事故アリテ退社セントスル者ハ豫メ幹事ノ承知ヲ得テ社員タルノ證券ヲ返付シ第二條ニ適セル代員ヲ入社セシムベシ

但積金豫備金ハ退社スル者ト代員トノ協議ニ任カスモノトス

第二十五條

代員ヨリ更ニ第二號ノ結約書ヲ本社へ出スヘシ然ルトキハ第一號ノ證券ヲ引換ニ交付スベシ  
但手數料トシテ金五十錢ヲ要スルモノトス

第二十六條

轉籍移住ノ者ハ必ス其旨ヲ本社へ報知スベシ

第二十七條

公私ノ用ヲ論セズ外國或ハ内國他管下へ轉籍寄留出張等ヲナス者ハ第二號雛形契約書ニ署名セル保證人ノ外尙更ニ引受人ヲ定メ必ス惠與金ヲ出スベシ

但保證人引受人トモ幹事ノ見込ニテ其人ヲ不適當トナストキハ更ニ他人ヲ撰ムヘシ

第二十八條

一ヶ月ノ惠與金ヲ怠ル者ハ其翌月ノ抽籤ヲ除キ二ヶ月怠ル者ハ斷然之ヲ退社セシメ更ニ新規ノ者ヲ撰ヒ入社セシムヘシ

但惠與金ハ勿論積金豫備金トモ亦棄捐タルベシ

第二十九條

保證人轉籍移住及ヒ内外國ヲ論セス府下ニ居住セサル場合或ハ死去等ノ節ハ更ニ保證人ヲ定メ



其旨ヲ幹事ニ報道スヘシ  
但書第二十七條ニ同シ

第三十條

毎年總集會ノ節一ケ年ノ死者中籤者ヘノ惠與金及ビ諸消費ノ計算ヲ詳記シ之ヲ各員ニ報知スヘシ

但社員中諸帳簿及ヒ諸證書等ノ一覽ヲ乞フモノヘハ日時ヲ撰ハス其望ニ任カスヘシ

第三十一條

臨時處分スベキ事項アルトキハ其時々本社ヨリ委員ヘ報知シ集會ヲナスヘシ

第三十二條

此規則ハ目今確定スト雖モ猶將來總員ノ協議ニヨリテハ更ニ加除改正スルコトアルヘシ

第一號雛形 用紙及ヒ證券印紙等ノ費ハ各員ヨリ出スヘシ

印紙

契約書

一 貴殿之社員タルヲ證スル爲メ此證券ヲ附シ社則第十條及ヒ第十七條之場合ニ至ルトキハ

此證ニ引替惠與金ヲ交付ス依テ誓約如件

但規則第廿八條之通り二ケ月ノ出金ヲ怠ルトキハ社員タルノ權利ヲ失ヒ此證券ハ無効  
ノモノタルヘシ

年 月 日

社印

幹事

第何號社員

某 殿

某 某 某  
印 印 印

第二類 人保險之部

第二號雛形 用紙證券界紙費同前

三五〇

區町番地

族籍

何年何月何日生

姓名

明治何年何月何年何ヶ月

社則ニ遵ヒ月々惠與金無遲滯差出シ可申誓約仍テ如件

右

年月日

某印

前書之通相違無之萬一本人惠與金滯ルトキハ拙者ヨリ急度差出シ可申候也

保證人

住所

族籍

某印

ハ入社人戸主ニアラサレハ戸主ノ連署ヲ要ス

分 光 社

御 中

第三號

第何號

分 光 社

社 印

印割

第何號掛金領收證

某 殿

印割

金 何 圓

確收候也

甲第四號雛形 用紙證券界紙

契約之證

- 一 拙者儀今般中籤ニヨリ 満期ニ付規則第十條 第廿二條之通惠與金ノ内ヲ以テ何分利付公債證書額面何圓ヲ購求シ幹事ノ連署ヲ以テ之ヲ東京府廳へ預ケ保管ヲ願フニ付盟約スル件々左ノ如シ
  - 一 右公債證書ハ拙者ノ記名ト雖モ固ト本社ノ惠與金ニ充ツルモノナレハ拙者生存中ハ決テ證書ノ下ケ戻ヲ願ハザルハ勿論政府ヨリ下附ノ利子ハ領收ノ即日本社へ納付可致事
  - 一 前項利子ノ納付ヲ忘リ若クハ私用セシトキハ違約ノ償トシテ該證書ノ所有權ヲ放棄シ幹事連署ノ上府廳ヨリ下ケ戻ヲ願ヒ無代價ニテ本社へ讓渡ノ手續ヲ可致事
  - 一 右公債證書大藏省ノ中籤ニヨリ元利金下附ノ節ハ其旨本社へ報道シ幹事立會ノ上領收スヘシ決テ一個ニテ受取方致ス間敷候事
- 右誓約書仍テ如件

年 月 日

住 所

姓 名

保 證 人

住 所

姓 名

分 光 社

御 中

乙第四號雛形 用紙前同斷

契約之證

- 一 貴殿事今般中籤ニヨリ 満期ニ付本社規則第十條 第廿二條之通購求サレタル何分利付公債證書額面何圓之ヲ貴殿ノ記名トシ幹事ノ連署ヲ以テ東京府廳へ預ケ保管ヲ蒙リタルニ付貴殿死亡ノ節ハ規則第十一條ノ旨趣ニ因リ處分可致候事
- 右約定候條爲後證如件

年 月 日

社 名

社 印

幹事

某某某  
印 印 印

某 殿

分光社申合規則

申合規則  
第五號

第二三號

- 第一條
- 第二條
- 第三條
- 第四條
- 第五條
- 第六條

第壹號ト同シ

第七條

創立積金トシテ各員ヨリ金二圓宛ヲ出シ合金千圓ヲ以テ公債證書ヲ購求シ之ヲ府廳ニ預ケ其利子ヲ以テ一切ノ社費ニ供スヘシ

但書第壹號ニ同シ

第八條

社員ハ前條積金ノ外各自金壹圓ヲ出シ合金五百圓ヲ以テ共濟ノ豫備金トス

但書第壹號ト同シ

第九條

社員ハ毎月廿日迄ニ必ス金壹圓宛ノ惠與金ヲ日本橋區南茅場町十二番地第十三國立銀行へ送付スヘシ

但書第壹號ト同シ

第十條

毎月各社員ヨリ出ス所ノ合金五百圓ハ社中死者ノ遺族ニ惠與ス死者ナキトキハ其翌月第二土曜日抽籤法ヲ以テ中籤者へ之ヲ與フヘシ